

平成24年度 事業報告 目次

事業の概要	-----	1
公Ⅰ 異分野・異業種交流、情報の収集・提供、相談事業		
1. 広報事業	-----	2
2. 相談事業	-----	2
3. 研究会推進事業	-----	3
4. 産学官連携推進のためのフォーラム等開催事業	-----	4
公Ⅱ 基盤技術の継承、産業人材の育成、研究・技術開発成果の実用化		
1. 人材育成事業	-----	6
(1) 新素材基礎技術講座		
(2) 中核人材育成講座		
(3) はままつデジタル・マイスター(HDM)養成講座		
(4) パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）		
(5) 技術経営講座		
(6) 起業家精神・ものづくり精神啓発事業		
(7) 浜松マイスター推進事業		
2. 知財活用推進事業	-----	17
(1) 知財に関する相談事業		
(2) 知財講演会、講習会開催事業		
3. 浜松起業プロデュース事業	-----	18
(1) 浜松起業家サロン		
(2) 浜松起業家学校		
(3) はままつ起業グランプリ		
(4) 起業に伴う個別相談・販路開拓支援		
(5) 城北図書館起業家交流サロン事業		
(6) B I ネットワーク構築支援事業		
4. 半田山T B G活用運営事業	-----	23
5. 地場産業振興事業	-----	24
(1) 繊維製品の普及拡大		
(2) 「バイクのふるさと浜松 2012」実行委員会事務局運営事業		
6. 技術開発・新産業創出支援事業	-----	26
(1) 浜松地域 CFRP 事業化研究会		

- (2) 浜松地域チタン事業化研究会
- (3) 浜松地域マグネシウム事業化研究会
- (4) 浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会
- (5) 浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会（パワエレ研究会）
- (6) 新産業創成事業
- (7) 「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」への支援事業

7. 産学官共同研究促進事業 39

- (1) 新事業開発促進補助金

公III 研究・技術開発成果の事業化

1. 地域イノベーション戦略推進事業 40

- (1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットホーム」
- (2) 若手・中堅の研究者及び技術者の育成
- (3) コーディネーター人材の充実
- (4) グローバル展開の強化
- (5) 長期的教育システムの研究

2. 国等の研究開発事業化支援事業 43

3. 市場・販路開拓支援事業 44

- (1) 中小企業展示商談会出展支援事業
- (2) 「機械要素技術展」への出展

公IV 債務保証事業

1. 債務保証事業 46

公V 高度技術振興事業

1. 研究開発支援事業 47

2. 情報技術者等養成研修事業 47

3. 研究成果の事業化支援事業 48

4. 次世代自動車等技術調査事業 48

公VI 地域産業活性化事業

1. 地域産業活性化補助金交付事業 49

2. 総合展示会「はままつメッセ」の開催 50

3. 商品化、事業化支援事業 50

4. 販路開拓のための人材育成事業 51

参考資料

財団の運営

1. 基本財産及び基金	-----	52
2. 役員及び委員	-----	53
3. 会議	-----	56
4. 研究会推進事業	-----	58
5. 賛助会員	-----	59
6. 事務局体制	-----	60

事業の概要

平成 24 年度の浜松地域の経済は、エコカー補助金等、景気対策の追い風により緩やかな回復基調でスタートしたものの、夏以降は、政策効果が一巡するとともに、欧州財政危機や中国、韓国との関係悪化なども重なり、楽観を許さない状況で推移しました。一方で、12 月の自由民主党政権の誕生により、いわゆる「アベノミクス効果」への期待が高まり、超円高の是正と株高傾向が進み、我が国の経済全体に明るい兆しが見え始めました。

輸送用機器をはじめとする地域の主要企業の業績も、国内外での堅調な販売や、円安の影響を受けて大きく改善しましたが、中小企業まで含めた地域経済全体の景況感が改善するまでには至りませんでした。

また、円高水準は是正されたものの、東南アジアをはじめとする新興国市場の拡大や部品の現地調達化、さらには人口減少による国内市場の縮小など、海外シフトへの大きな流れに変わりはなく、これまで本地域の発展を支えてきた「ものづくり産業」の空洞化が依然として懸念される状況にあります。地域経済の持続的発展に向けては、新産業の創出や既存産業の高度化など、地域を挙げたイノベーションへの取り組みが、ますます重要になっております。

こうした中、本財団につきましては、静岡県知事の認可を得て、平成 24 年 4 月 1 日付けて「公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構」に移行いたしました。併せて、従来の「浜松地域テクノポリス推進機構」と浜松市の「はままつ産業創造センター」という、2 つの組織、事業の一体化を果たし、地域の総合的な産業支援機関として新たなスタートを切りました。

さらに、「知的クラスター創成事業」の後継事業である「地域イノベーション戦略／浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」につきましても、平成 24 年 6 月に文部科学省の「支援プログラム（補助事業）」に採択され、静岡大学・浜松キャンパス内に「イノベーション戦略推進本部」を設置し、活動を本格化させました。国の資金で新たに 13 名の地域連携コーディネーターを配置し、地域内外の様々な知の資源を結集するオープンイノベーションの仕組みにより、新産業の創出に向けた課題解決や事業開拓への取り組みをスタートいたしました。

本財団のミッションは、地域企業における経営資源の開拓・強化と成長分野への参入支援です。そのため、产学官連携のもと、創業から、新技術・新製品開発、新事業展開、さらには経営者・技術者等の人材育成、知財活用や資金確保、販路開拓など、企業ニーズに対応した各段階での支援に取り組み、地域企業が、新たな価値を創造する真のイノベーションを推進し、海外も含めた新たな市場を獲得できるよう支援してまいります。

平成 24 年度の事業は、事業報告に記載のとおり、公 I から公 VI までの 6 つの柱に沿って実施してまいりました。各事業の実施に当たっては、PDCA サイクルの構築を進め、事業実施後の評価についても、やりっぱなしではなく、お客様の立場に立った具体的な効果の検証に努めました。こうした取り組みは、まだ十分とは言えませんが、事業費の多くを税金に頼る公的な産業支援機関として、地域企業にとって、税金がより効果的、効率的に使われるよう、引き続き、事業の不断の見直しに全力で取り組んでまいります。

平成 24 年度 事 業 報 告

公 I 異分野・異業種交流、情報の収集・提供、相談事業

技術、知財、市場、販路等、国内外の多方面にわたる産業情報の収集、発信をはじめ、地域中小企業のイノベーションの促進に向けた相談事業や異業種交流、情報の交換・交流事業を推進する。

1 広報事業

【目的】

地域企業にとって有益な情報を収集・発信することにより、地域企業の支援情報へのアクセスを促進し、地域産業の活性化を図る。

【実施内容】

(1) 「イノベーションはままつ 2013 No.1」の発行

情報誌「イノベーションはままつ 2013」を新たに発行し、公益財団移行に伴う、事業概要の説明及び上半期の事業実施報告をした。

(地域企業あて発送数 582 件)

(2) メールマガジンの発行

浜松地域イノベーション推進機構をはじめとする公的機関、各種支援機関からの産業支援情報やお役立ち情報を掲載したメールマガジンを、年間 24 回（毎月第 1・第 3 水曜日）配信した。

(年度末登録数 1,236 件)

(3) ホームページの充実

イノベーション戦略推進本部のホームページの開設や、産業支援情報の発信により、内容の充実を図った。

(年間アクセス回数 39,945 回)

(4) 浜松地域産業支援ネットワーク会議

地域の 7 つの産業支援機関からなる「浜松地域産業支援ネットワーク会議」の事務局を行い、地域で取り組む産学官連携や中小企業支援等の情報を共有するとともに、相互の事業効果を高めるための協力・連携を促進した。

【総括】

ホームページ、メールマガ、情報誌等により、地域企業のニーズに対応した行政や産業支援機関の動向、支援事業等に関する情報を発信した。



2 相談事業

【目的】

中小企業者及び個人経営者等が抱える経営、技術、人材、特許等の種々の課題に対し、経営・技術・知財のコーディネーターが適切な助言を行うとともに、民間の専門家を派遣することにより問題解決を図る。

【実施内容】

(1) 各種相談

相談項目		H24 (件)	対前年比 (H24/H23)	H23 (件)
技術相談	技術開発	48	49.0%	98
	人材	1	12.5%	8
	その他	88	84.6%	104
経営相談	資金	142	355.0%	40
	創業	59	66.3%	89
	販路開拓	369	87.0%	424
	その他	712	137.7%	517
知財相談	技術移転	3	5.4%	56
	その他	798	83.8%	952
相談総件数		2,220	97.0%	2,288

(2) 専門家派遣事業

分 野	H24		H23	
	対象企業数 (社)	派遣回数 (回)	対象企業数 (社)	派遣回数 (回)
経 営	29	92	17	55
技 術	8	28	4	16
知 財	1	1	7	24
合 計	38(135.7%)	121 (127.4%)	28	95

※ () 内は、対前年比 (H24/H23)

【総括】

相談件数は、前年度並みであった。本相談事業により、地域の企業等が抱える課題等を把握することができ、その解決のためにコーディネーターやコンシェルジュが果たした役割は大きい。また、専門家派遣については、計画的な事業運営ができたとは言えないことから、派遣申請書の見直し、事後評価調査書の新規導入など、制度の改善を行い、一層の充実を図る。

3 研究会推進事業

【目的】

異業種交流や成長分野の研究を通じて、企業間の連携・交流を促進させ、新事業・新産業の創出に取組む。

【実施内容】

(1) 異業種交流グループ

①TM プラザはまつ

正会員数 35 社 (H25.3 現在)

講演会「健康で快適なコンディションを維持するために」他 2 回

企業視察「神谷理研㈱・カツヤマファインテック㈱」他 3 回 など

②浜松技術交流プラザ 82

正会員数 14 社 (H25.3 現在)

講演会「今後の中小製造業のあり方について」他 2 回

企業視察「金沢地域企業大学視察会」他 2 回 など

③都田アソシエイツ
正会員数 57 社 (H25.3 現在)
講演会「マーケティング思考を活用すると違った世の中が見える」他 1 回
企業視察「シンフォニアテクノロジー㈱・本多電子㈱」他 2 回

(2) 成長分野研究会

①VB・VC 研究委員会

正会員数 18 社 (H25.3 現在)
講演会「次の政権とその次の政権の予測」他 3 回
はままつ起業グランプリ 2012 (財団共催事業)

②ソフトウェア産業振興研究委員会

正会員数 33 社 (H25.3 現在)
講演会「インターネット過去・未来」他 3 回
企業視察「金沢地域企業大学視察会」他 2 回 など

③先端精密技術研究会

正会員数 法人 59 社、個人 23 名 (H25.3 現在)
講演会「輸送機器軽量化のための最近の塑性加工技術開発動向」他 9 回
講習会「機械の機構の構造の設計法とパラレルマニュピュレータの設計」
他 4 回

見学会「JFE エンジニアリング㈱ & JFE テクノリサーチ㈱」1 回

④次世代設計・製造構造研究会

正会員数 17 社 (H25.3 現在)
講演会「宇宙分野のソフトウェア安全の取り組み」他 4 回

(3) その他

①浜名湖のりブランド推進協議会

正会員数 23 社 (H25.3 現在)
「家康楽市」春・秋の陣出店
琵琶湖＆浜名湖食の交流出展 など

【総括】

講習会、セミナー、視察研修会、調査研究事業等の活動を実施し、参加企業の連携に向けた研修や情報共有を図ることができた。

今後は、他地域の情報収集や新事業開拓につながる活動にも力を入れていく。

4 産学官連携推進のためのフォーラム等開催事業

【目的】

静岡大学、浜松医科大学、静岡理工科大学の各大学と連携してフォーラムを開催し、地域における産学官連携の充実に向けて、市民・産業界へ情報発信を図る。

【実施内容】

(1) 静岡理工科大学 産学官連携フォーラムの開催

開催日：平成 24 年 11 月 27 日(火)

会 場：ホテルクラウンパレス浜松

参加者数：152 名

内 容：特別講演「地域が主導するスマートタウン構想」

東京工業大学 特命教授 柏木 孝夫 氏 他

(2) メディカルイノベーションフォーラム 2013 の開催

開催日：平成 25 年 2 月 22 日(金)

会 場：グランドホテル浜松

参加者数：167 名

内 容：基調講演「医療現場と地域企業の連携～世界市場へ向け、挑戦を!!～」

株式会社メトラン代表取締役 Tran Ngoc Phuc

(トラン・ゴック・フック/日本名：新田 一福) 氏

パネルディスカッション「健康医療の地域ブランドをいかにして作るか？」

(3) グローバルイノベーションフォーラム 2013 の開催

開催日：平成 25 年 3 月 13 日(水)

会 場：オークラアクトシティホテル浜松

参加者数：126 名

内 容：基調講演「新たな東アジアの枠組みの中での中小企業のあり方」

明星大学 経済学部 教授／一橋大学 名誉教授 関 満博 氏

パネルディスカッション「次の成長を目指す、中小企業の海外展開」

(4) 観察研修会

実施目的：地域の基盤技術を活かした产学研官連携の事例と独自技術で競争力の確保を図る企業を観察する。

開催日：平成 24 年 11 月 20 日(火)～21 日(水)

観察先：金沢工業大学、(株)小松製作所、玉田工業(株)

参加者数：18 名

観察内容：

金沢工業大学：金沢の基盤技術を生かす炭素繊維 2 次加工に特化し、
2020 年を事業化目標としたクラスター事業。

(株)小松製作所：海外競合他社との差別化を徹底した、価格競争に依存しない世界水準のブランド戦略。

玉田工業(株)：スチールと FRP の二重構造による独自の地下油タンクの高い製
造技術に基づく、中小企業のブランド戦略と新規事業展開。

【総括】

社会（企業、行政、地域）のニーズに対して、大学のシーズ等を発表し、産業界と大学との連携強化を図った。また本地域における次世代産業の創出に向けて、产学研官関係者が一堂に集まる中、パネルディスカッションを通して有識者のそれぞれの立場から、取組みの紹介、発表等を行った。

公Ⅱ 基盤技術の継承、産業人材の育成、研究・技術開発成果の実用化

地域産業を支える基盤技術や大学の保有技術、さらには地場産業の伝統技術等の地域資源を活用しながら、起業家から中核人材、経営層に至る様々な階層の人材を育成するとともに、研究開発から成果の実用化までの一連の支援を通じて、既存産業の高度化と新産業の創出を目指す。

1 人材育成事業

(1) 新素材基礎技術講座

【目的】

次世代自動車（EV、HV）の普及が加速する中、燃費向上、環境負荷軽減のため、車体の軽量化が強く求められており、超高張力鋼板（ウルトラハイテン）をはじめ、炭素繊維強化樹脂（CFRP）やマグネシウム、チタン材料等の新素材の活用が必須となっている。

地域企業が、これら新素材の材料特性、加工方法、用途展開などの基本を修得することにより、技術の差別化、高度化を図る。

【対象業種】

- ・輸送用機器に用いる素材企業、部品加工企業（機械加工）、加工技術に関連する周辺分野（金型、設備機械等）
- ・製品の企画開発に携わる技術者（特に若手技術者）

【実施内容】

- ・開催日：平成24年11月8日（木）、14日（水）、19日（月）、27日（火）
- ・会場：浜松労政会館
- ・受講人員：
ウルトラハイテン 17名 ※募集定員は各講座20名
CFRP 21名
マグネシウム 17名
チタン 12名

【総括】

①講座の特長

講師は、全員民間企業の第一線で活躍しているか、これまで活躍していたトップクラスの技術者である。従って、講座内容は高度で、具体的であり、最新情報に富んでいる。当地域での新素材に関する唯一の技術講座であり、国内でも有数のレベルである。

②受講者の評価

講師には、材料を学んだ受講生がいない前提で平易な講義を依頼した。このため、地域中小企業からの受講生の関心に応えることができ、理解度も極めて高く、質問も多かった。

③今後の課題

CFRPは、鋼板に代わる新たな素材として関心が高く、受講者数は多かった。一方、チタンは、直近に同じ講師によるポリテクカレッジでの講座（切削のみ、3日間）があったり、馴染みが薄いこともあって、受講者数はやや少なかった。今後の課題としては、受講者の増に向けた事業のPR方法の改善や、（一社）日本チタン協会、（一社）日本マグネシウム協会との連携による全国展開を考えられる。

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
ウルトラハイテン 11月8日（木）	自動車用ハイテンの冶金的意味と製造技術	新日鐵住金㈱ 高橋 学 氏
	ウルトラハイテンの板材成形技術	J E Fスチール㈱ 山崎 雄司 氏
	部品高強度化のための熱間プレス技術	新日鐵住金㈱ 中田 匡浩 氏
	総合討議	静岡大学 中村 保 氏
マグネシウム 11月14日（水）	マグネシウム鋳造法の特徴と自動車分野への適用	㈱アーレスティ 武田 秀 氏
	マグネシウム合金圧延板材と適用事例	日本金属㈱ 佐藤 雅彦 氏
	マグネシウムの最新技術・新製品動向	森村商事㈱ 虫明 守行 氏
	総合討議	静岡大学 中村 保 氏
CFRP 11月19日（月）	CFRPの材料特性と成形技術	東レ㈱ 山口 晃司 氏
	CFRPの自動車への適用	トヨタ自動車㈱ 影山 裕史 氏
	航空機における CFRP の現状と動向	大同大学 平 博仁 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹
チタン 11月27日（火）	チタンの基礎～材質、分類、特性	一般社団法人日本チタン協会 伊藤 均 氏
	チタンの加工～プレス、溶接、切削	一般社団法人日本チタン協会 上瀧 洋明 氏
	日本のチタン産業とチタンの用途	一般社団法人日本チタン協会 木下 和宏 氏
	総合討議	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹

(2) 中核人材育成講座

【目的】

浜松地域の基幹産業である輸送用機器製造業を支える人材を継続して育てていくため、基盤製造技術（成形、加工、塗装、仕上げ、組立て等）を体系的に理解し、各々が担当する前後の工程を把握したうえで、広い視野でスキルアップしていくことが出来る人材を育成すること。

【実施内容】

開催日： 平成24年5月30日（水）～ 平成24年10月26日（金） 約85時間
会 場： 静岡大学工学部、静岡理工大学、

ポリテクカレッジ浜松（浜松職業能力開発短期大学校）、視察先企業
受講人員：27名（19社） ※募集定員は30名

【総括】

講座全体についての受講者満足度（「非常に満足」「概ね満足」の割合）は82.3%と、目標の90%には届かなかった。受講企業からは、「他分野の視点から物事を考えられるようになった」とか「幅広い分野を学ぶことで、自社の仕事に対する見方が変わった」という一定の評価を受けることができた。今後も地域企業からの要望に応えられるように、カリキュラムや講師などの一層の見直しを行う。

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
5月30日(水)	開講式	
	部品加工における新しい技術動向	静岡大学工学部 専任教授 中村 保 氏
	輸送用機器に対する社会及び市場ニーズ と自動車メーカーの対応	スズキ㈱ 四輪市場品質保証部長 石塚 哲 氏
	部品加工業に求められる管理要素	スズキ㈱ 常務役員 袴田 和夫 氏
6月7日(木)	板材成形（基礎）	スズキ㈱ 生産管理部研修課 専任職 山下 進 氏
	鋳造（基礎）	スズキ㈱ 第一生産技術部鋳造課 技術専門職 五島 貴治 氏
6月11日(月)	鋳造メーカーにおける実地指導	㈱木村鋳造所
6月22日(金)	鍛造（基礎）	浜松工業技術支援センター 光科 上席研究員 鷺坂 芳弘 氏
	鋳造（応用）	岐阜大学 金型創成技術研究センター 教授 山縣 裕 氏
6月28日(木) ～ 6月29日(金)	鍛造（応用） 鍛造用金型の設計・製作実習（1班）	西尾精密㈱ 相談役 西尾 真之 氏
	交流会・宿泊研修	
	鍛造（応用） 鍛造用金型の設計・製作実習（2班）	
7月4日(水)	板材成形（応用）	JFE スチール㈱ スチール研究所 主任研究員 山崎 雄司 氏
	樹脂成形（基礎）	イオインダストリー㈱ 製造部 次長 緑川 広貴 氏
7月9日(月)	輸送用機器メーカーにおける部品加工工程における実地指導	スズキ㈱ 金型工場
7月17日(火)	樹脂成形（応用）	イオインダストリー㈱ 製造部 次長 緑川 広貴 氏
	切削（基礎）	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫氏

	溶接（基礎）	静岡大学 工学部 准教授 酒井 克彦 氏
7月 19日(木)	実習①（板材成形、切削）	ポリテクカレッジ浜松
7月 23日(月)	工具メーカーにおける実地指導	オーエスジー(株)
7月 27日(金)	実習②（射出成形、溶接）	ポリテクカレッジ浜松
8月 6日(月)	切削（応用）	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫 氏
	溶接（応用）	岡本プレス工業(株) 技術部長 安間 久雄 氏 静岡大学 工学部 准教授 酒井 克彦 氏
8月 22日(水)	輸送用機器完成車工程における実地指導	スズキ(株) 湖西工場
8月 28日(火)	鍍金・表面処理（基礎）	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
	塗装（基礎）	静岡大学 工学部 准教授 酒井 克彦 氏
9月 4日(火)	加工設備メーカーにおける実地指導	旭サナック(株)
9月 12日(水)	鍍金・表面処理（応用）	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
	塗装（応用）	松和(株) 製造部 第四グループ長 山下 幸弘 氏
9月 18日(火)	力学・材料力学の基礎	元はままつ産業創造センター 技術コーディネーター 野沢 隆二郎 氏
	有限要素解析法の基礎	元はままつ産業創造センター 技術コーディネーター 野沢 隆二郎 氏
9月 26日(水)	メーカーが求めるデジタルエンジニアリングとは	スズキ(株) デジタル技術部 CAD 推進課 課長代理 西澤 俊彦 氏
	リバースエンジニアリングの重要性	(株)アルモニコス 営業統括執行役員 中村 良彦 氏
10月 4日(木)	CAD/CAM システム適用の歴史と最新技術動向について	天方産業(株) デジタルプロセス(株)
10月 11日(木)	生産加工 CAE（基礎） HDMの紹介 ※静大HDM使用教室・システムの紹介含む。	静岡大学 工学部 准教授 早川 邦夫 氏
	CAE 解析の紹介（ダイカスト、樹脂、板材成形、鍛造）	(株)C FD研究所 (株)計算力学研究センター 日本イーエスアイ(株) (株)ヤマナカゴーキン
10月 26日(金)	修了式	

(3) はままつデジタル・マイスター（HDM）養成講座

【目的】

- ・最新デジタル技術（3D-CAD/CAM/CAE/CAT）を活用して、企画・開発・設計から製造技術までを一貫して構築できる、ものづくりの統合的能力を持つ「はままつデジタル・マイスター（HDM）」の養成。
- ・最新デジタル技術と加工法を駆使して、“21世紀型の擦り合せて作り込む”ものづくり能力を持つHDMの養成。
- ・板材成形、鍛造の各加工要素技術の基礎技術、応用技術、機械加工、溶接技術、3D-CAD技術、金型設計技術、成形シミュレーション技術を習得する。
- ・ものづくりMOTコースでは、技術経営的視点とその能力を統合的に養成する。

【実施内容】

開催日：平成24年4月13日（金）～ 平成25年2月2日（土）

会場：静岡大学工学部

受講人員：
鍛造コース 8名（7社） ※募集定員は各コース7名
板材成形コース 3名（3社）

【総括】

受講者の修了認定に当たっては、中間評価や修了認定発表会を開催し、受講者の達成度をチェックすることができた。一方、講座で取り扱う3次元CAD/CAEソフトが受講者の所属企業に導入されていないケースも見られ、受講者が講座で身に付けたことを、自社に戻ってどの程度活用できているのかを把握していくことが必要である。

【講座内容：鍛造・板材成形共通コース】

開講日	内 容	講 師
4月13日（金）	開講式・23年度受講生事例発表	
	HDM養成の必要性	静岡大学 中村 保氏
4月18日（水）	製品開発設計の考え方	スズキ(株) デジタル技術部 CAD推進課 課長代理 西澤 俊彦 氏
4月20日（金）	デジタルプロセスの活用応用Ⅰ	(株)ユニバанс 小山 祥一 氏
	デジタルプロセスの活用応用Ⅱ	シマノ 白井 理浩氏
5月11日（金） 5月18日（金）	3D-CAD演習基礎Ⅰ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
5月12日（土） 5月19日（土）	3D-CAD演習基礎Ⅱ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
6月18日（月）	3D-CADの基礎	静岡大学 教授 三浦 憲二郎 氏
6月20日（水）	3D-CADの応用	静岡大学 教授 三浦 憲二郎 氏
6月27日（水）	塑性力学の基礎Ⅰ	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
7月11日（水）	ものづくりMOTの必要性	ベンチャーポ 東海支社 中村 穣治 氏

	ものづくり戦略	㈱ユニバанс 新事業PJリーダー 鈴木 正 氏
7月 18日 (水)	プレゼンテーション技法	静岡大学 教授 上田 芳伸 氏
	技術経営戦略	静岡大学 教授 上田 芳伸 氏
7月 20日 (金)	ものづくりと知財	浜松地域イバーション推進機構 知財コーディネーター 石井 勉

【講座内容：鍛造コース】

開講日	内 容	講 師
6月 29日 (金)	鍛造の基礎と応用	浜松工業技術支援センター 光科 上席研究員 鷺坂 芳弘 氏
6月 30日 (土)	鍛造金型の設計演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 21日 (土)	鍛造シミュレーション演習 (DEFORM)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月 27日 (金)	板鍛造シミュレーション演習 (simufact)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 11日 (土)	部品強度解析演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 29日 (水)	塑性力学の基礎Ⅱ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月 31日 (金)	塑性力学の基礎Ⅲ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月 5日 (水)	弾塑性有限要素法の基礎	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月 26日 (水)	3D-CAT演習I (range 7)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月 28日 (金)	3D-CAT演習II (sp シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月 29日 (土)	3D-CAT演習III (Space/E シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
10月 3日 (水)	機械加工の基礎	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫 氏
10月 5日 (金)	機械加工の応用	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫 氏
10月 10日 (水)	鍛造用材料	松菱金属工業(㈱) 部品技術部長 戸田 正弘 氏
10月 12日 (金)	鍛造用金型材料 I	日立金属工具(㈱) 主幹技師 浜小路 正博 氏
	鍛造用金型材料 II	ダイジェット工業(㈱) 課長代理 河原 淳二 氏
10月 20日 (土)	中間評価	企画評価委員

12月20日(木)	修了認定課題中間発表	企画評価委員
2月2日(土)	修了認定課題発表会	企画評価委員

【講座内容：板材成形コース】

開講日	内 容	講 師
6月29日(金)	板材成形の基礎	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
7月4日(水)	板材成形の応用	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月6日(金)	板材成形金型の設計	(株)オーミ 前川 裕昭 氏
7月7日(土)	板材成形金型の設計演習	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月13日(金)	板材成形シミュレーションⅠ (PAM-STAMP)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月14日(土)	板材成形シミュレーションⅡ (PAM-STAMP)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
7月28日(土)	板鍛造シミュレーション演習 (simufact)	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月4日(土)	部品強度解析シミュレーション	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月29日(水)	塑性力学の基礎Ⅱ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
8月31日(金)	塑性力学の基礎Ⅲ	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月5日(水)	弾塑性有限要素法の基礎	静岡大学 准教授 早川 邦夫 氏
9月12日(水)	3D-CAT演習Ⅰ (ViViD-9i)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月14日(金)	3D-CAT演習Ⅱ (sp シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
9月22日(土)	3D-CAT演習Ⅲ (Space/E シリーズ)	静岡大学 研究員 久保田 義弘 氏
10月3日(水)	機械加工の基礎	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫 氏
10月5日(金)	機械加工の応用	静岡大学 名誉教授 鈴木 康夫 氏
10月10日(水)	溶接の基礎	静岡大学 准教授 酒井 克彦 氏
10月12日(金)	溶接の応用	静岡大学 准教授 酒井 克彦 氏
10月20日(土)	中間評価	企画評価委員
12月20日(木)	修了認定課題中間発表	企画評価委員

2月2日（土）

修了認定課題発表会

企画評価委員

(4) パワーエレクトロニクス技術講座（基礎）

【目的】

ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池車など、次世代自動車の普及に伴い、車の電気化・知能化が急速に進んでおり、大電流を使用するパワーエレクトロニクス技術（パワエレ技術）が非常に重要となっている。本技術に係る技術者育成のため、国内の第一人者を講師に迎え、本講座を実施する。

【実施内容】

開催日：平成24年11月20日（火）～平成24年12月17日（月）（5日間）

会場：浜松労政会館 第3、第4会議室

受講人員：17名（11社）※募集定員は20名

【総括】

パワエレ技術の基礎講座を静岡理工科大の講師を中心に座学形式で行った。これによって輸送用機器（特にハイブリッド車など）で用いられるモータ技術について、その周辺の電子回路（ロジック回路）や電気回路、更に制御ソフトウェアなど、基礎知識を習得することができた。今後は、これらの座学形式の講座を基本として、更に理解度を深めるため、実習形式の講座を企画し、一層の基礎技術習得を目指す。

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
11月20日(火)	パワエレを学ぶために パワエレの適用事例 パワエレのための電磁気学	静岡理工科大学 総合技術研究所 客員教授 増田 郁朗 氏
11月29日(木)	パワエレのための電子回路	静岡理工科大学 講師 山本 健司 氏
12月6日(木)	モータの基礎 モータの制御方法	静岡理工科大学 講師 服部 知美 氏
12月12日(水)	パワーデバイスと電力変換器	静岡理工科大学 特任講師 中田 篤史 氏
12月17日(月)	パワーエレクトロニクス用 センサの原理と利用法	IEEJ プロフェショナル 渡邊 利彦 氏
	制御用ソフトウェアの構造とプロ グラムの作成法	静岡理工科大学 教授 高橋 久 氏

(5) 技術経営講座

【目的】

浜松地域のものづくり産業において、企業経営を担う技術者に対し、技術を戦略的にマネジメントする能力の更なる向上を目的として講座を開催した。

【実施内容】

講座名：「リスクマネジメント（経営とリスクマネジメント／製造業における危機

「管理（BCP・防災）の捉え方／製品安全のためのリスクアセスメント」
 「マーケティング」
 「デザインマネジメント」
 「品質工学」

開催日：平成24年7月～平成25年3月
 会場：浜松労政会館、ポリテクカレッジ浜松 パーソナルコンピュータ室
 受講人員：リスクマネジメント 50名 ※募集定員は各講座30名
 マーケティング 18名
 デザインマネジメント 16名
 品質工学 12名

【総括】

平成24年度は、地域企業からのニーズが高いと思われる基本的な科目を実施した。次年度以降も引き続き講座の見直しを行い、時代の変化に対応した科目を選定・実施する。また、講座内容も座学形式だけでなく、ディスカッション形式を取り入れるなど、より実践的な内容としていく工夫も必要である。

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
7月31日(火)	◆経営とリスクマネジメント 経営環境を取り巻く危機の分析 リスクの内部要因と外部要因分析 市場の変化について 経営を取り巻く国際経済・貿易・社会環境 変化の影響	浜松地域イノベーション推進機構 理事長 津田 紘 (有)プロジェクトラボ 工学博士 萩野 徹 氏
8月23日(木) 8月24日(金)	◆製造業における危機管理（BCP・防災） の捉え方 経営戦略としての危機管理（BCP策定等） のポイント 中小企業の特性に合った危機管理計画書 の作成 他	黒木技術士事務所 技術士 黒木 泰宏 氏
9月3日(月) 9月10日(月)	◆製品安全のためのリスクアセスメント 製品安全のためのリスクアセスメントと 安全性設計 安全性解析・リスク分析の手法 FTA リスク分析 危害シナリオから FTAへの 展開 (演習含む) リスクの低減 (演習含む) 信頼性解析の手法 FMEA 機能ツリー図と構造ツリー図の作成 (演習含む) FMEAワークシートの作成 (演習含む) 発表用資料の作成、グループ発表	公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学 産業技術研究科 准教授 越水 重臣 氏

11月6日(火) 11月8日(木) 11月26日(月) 11月27日(火)	◆マーケティング 製造業のお客様は誰 マーケティングの戦略構造 マーケティングを考える	静岡大学 事業開発マネジメント専攻 教授 上田 芳伸 氏
	トレンドとマーケティング 演習(仮説立て、市場&競合、動向分析、 自社の技術、商品の分析)	
	消費構造を解き明かす 感性が価値を生むとは 売り上げを創り出すには	オラクルひと・しくみ研究所 代表/静岡大学 客員教授 小坂 裕司 氏
	感性情報のデザイン 購買行動のデザイン 顧客との絆作り	
2月12日(火)	◆デザインマネジメント デザインマネジメントの考え方 感性のマーケティング 色とは何か、嗜好、イメージ	静岡文化芸術大学 副学長 宮内 博実 氏
	感性イメージ 製品の企画・開発・販売時の デザインマネジメント	
2月23日(土) 3月2日(土)	◆品質工学 品質工学の全体像と本講座のねらい パラメータ設計入門(講義) システムダイアグラムの作成 技術とコストと品質工学 PC演習 品質をはかる実験 他	公立大学法人首都大学東京 産業技術大学院大学 産業技術研究科 准教授 越水 重臣 氏
	1日目の質疑応答 PC演習 静特性のパラメータ設計 PC演習 動特性のパラメータ設計 自社の課題で実験計画の立案 他	アマノ㈱ タイム開発部 主幹 鈴木 真人 氏

(6)起業家精神・ものづくり精神啓発事業

【目的】

浜松は、「やらまいか」をキーワードに、古くからものづくりのまちとして発展してきた。世界的企業がこの地から次々に生まれ、今までのものづくり・起業のDNAが脈々と受け継がれてきた。このものづくり・起業の精神を後世につなげるため、小中校生を対象に次世代人材育成として、起業家精神・ものづくり精神啓発事業を実施する。

【実施内容】

- ・事業実施校 47校 (小学校36校、中学校10校、高等学校1校)
- ・実施回数 47回
- ・受講生徒数 5,643人
- ・登録講師 40名

【総括】

実施校アンケートによると、「希望する又は期待する内容だったか?」という問いに「非常にそう思う 75.6%」「概ねそう思う 24.4%」という結果で、「そう思わない」という意見は1校も無く、「子どもたちにとって大変有意義な時間となった」「来年度も活用したい」という意見が多いなど、学校側の評価は非常に高い。

しかしながら情報交換会にて学校側より「募集案内を年度初めに行っても遅い。授業計画を立てる前年度の12月頃に案内してほしい」という意見・課題もあり、来年度からは学校が次年度の授業計画を立てる12月頃学校へ案内し、仮予約として申込みを受け付け、よりたくさんの学校に本事業を活用してもらう。毎年、2月に実施している情報交換会については9月~10月頃実施をし、課題があれば議論して、すぐに事業に反映できるようにする。

(7) 浜松マイスター推進事業

【目的】

浜松市長により認定された「浜松ものづくりマイスター」の周知・広報を行うとともに、マイスターの方々に市内企業や学生を対象に技術指導やセミナー等の人材育成活動を行っていただき、優れた技術の継承を通じて地域産業における技術の一層の高度化を図る。

【実施内容】

平成24年度は、新たに次の3名が認定され、マイスターの合計は10名。

- ・神谷 重久 氏 (スズキ㈱ 四輪技術本部 試作部 試作課)
- ・竹本 京司 氏 (㈱タケモト 専務取締役)
- ・山崎 肇 氏 (㈲豊岡ケガト 代表取締役会長)

活動実績については、下記のとおり。

【総括】

新たなマイスターの認定に当たっては、どの分野から候補者を推薦していくのか方針を明確化にし、地域企業からの技術相談等のニーズの高い分野を中心に、認定していく必要がある。また、マイスターの活用に向け、認定されたマイスターの周知・PR活動をさらに強化していくことが求められる。

【活動実績】

開催日	内 容	講 師
4月11日(水) 市内企業	軟質ウレタン樹脂に関する技術相談	(株)ポリシス 代表取締役 毛利 俊甫 氏
6月18日(月) 伊目小	起業家精神・ものづくり精神啓発事業での講義	西尾精密(株) 相談役 西尾 真之 氏
6月28日(木) 6月29日(金) 西尾精密(株)	製造中核人材育成講座でのインターンシップ	西尾精密(株) 相談役 西尾 真之 氏
7月18日(水) 新津中	起業家精神・ものづくり精神啓発事業での講義	(株)T R I N C 代表取締役社長 高柳 真 氏

8月3日(金) 浜松工業技術 支援センター	センターフェア 2012 ・理科教員向け講演会 ・高校生向け講演会 ・ブース展示	(株)TRINC 代表取締役社長 高柳 真 氏 (株)ポリシス 代表取締役 毛利 俊甫 氏
8月28日(火) 静岡大学	製造中核人材育成講座での講義 「鍍金・表面処理（基礎）」	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
8月29日(水) 市内企業	iPhone アプリ開発に関する技術相談	(株)CAI メディア 代表取締役社長 福地 三則 氏
9月12日(木) 静岡大学	製造中核人材育成講座での講義 「鍍金・表面処理（応用）」	神谷理研(株) 代表取締役専務 神谷 武彦 氏
10月16日(火) (株)CAI メディア	総合的な学習の時間「浜松あるある大事典」での講義	(株)CAI メディア 代表取締役社長 福地 三則 氏
11月15日(木) 相生小	起業家精神・ものづくり精神啓発事業での講義	(株)ポリシス 代表取締役 毛利 俊甫 氏
11月20日(火) 鴨江小	起業家精神・ものづくり精神啓発事業での講義	(株)CAI メディア 代表取締役社長 福地 三則 氏
1月7日(月)～ 1月18日(金) 古橋織布(有)	インターンシップ	古橋織布(有) 代表取締役 古橋 敏明 氏
3月17日(日) 浜松科学館	親子で楽しむ静電気の科学講座	(株)TRINC 代表取締役社長 高柳 真 氏

2 知財活用推進事業

(1) 知財に関する相談事業

【目的】

中小企業や個人が抱える知的財産に関する様々な課題、悩みを解決する。

【実施内容】

当機構の知財コーディネーターと知財総合窓口支援担当とが連携して、中小企業や個人からの相談に応じた。

平成24年4月～平成25年3月までの相談件数は463件

(内 企業訪問 132件 [内 知財総合窓口支援専門家派遣利用 37件])

【総括】

本年度の目標支援件数560件(特許庁知財総合支援窓口事業としての目標件数)に対して83%の達成率であったが、重要案件については企業訪問や弁理士等の専門家派遣制度を活用することで、相談内容を経営(事業)課題にまで掘り下げ、その結果、

質の面で適切な支援ができたものと考える。

課題としては、知財支援が中小企業の経営・事業に一層貢献するために、当機構の技術コーディネーター、経営コーディネーターとの連携、更には金融機関や商工会議所などとの連携を深めていくことが重要である。また、中小企業にとって負担の大きい特許費用等の経費面での支援策を国や市に働きかけていくことも必要である。

(2) 知財講演会、講習会開催事業

【目的】

知財に関する法制度の理解及び企業活動における知財活用の啓蒙・啓発を図る。

【実施内容】

- ・講演会：法改正、知財活用、知財戦略をテーマに以下の4回の講演会を開催
計 175 名参加
- ・講習会：①城北図書館との共催による特許情報検索講習会として、「特許編」、「意匠・商標編」を各2回開催、計 27 名参加
②出前知財講習会として、HI-Cube 入居企業等を対象に実施
19 名参加
③はままつデジタルマイスター、浜松起業家集中実践セミナーの中で、知財講義を実施
- ・その他：弁理士会東海支部主催「週末パテントセミナー」全4回、特許庁主催「実務者向け知的財産権制度 2012 説明会」全2回の開催について協力

【講演会】

開催日	内 容	講 師
6月12日(火)	米国特許法改正が与える日本企業への影響	弁理士 椿 和秀 氏
6月27日(水)	中小企業こそ知財活用 ＊はままつ知財研究会との共催	静岡県特許流通アドバイザー 風間 泰寛 氏
12月7日(金)	海外進出に伴う知財戦略	弁理士 松本 征二 氏 (元特許庁審判官)
3月26日(火)	著作権コンプライアンス ＊はままつ知財研究会との共催	弁護士・弁理士 宮田 逸江 氏

【総括】

地域企業の知財の活用、知財人材の育成のために、最新の法改正や海外の知財動向などに関する情報をタイムリーに提供することを目標に、今年度は上記の活動を行った。講演会、講習会参加者のアンケート結果によると「大変参考になり、有益であった」「自社の知財活動に役立たせたい」など“有意義度” 90%の評価を受けた。

課題としては、中小企業の参加者が少ないことが挙げられる。その理由として知財の基礎的な知識が乏しいことが考えられる。対策として中小企業向けに知財の基礎的な講習会、勉強会等を開催する必要がある。

3 浜松起業プロデュース事業

【目的】

地域経済の再生と将来への持続的な発展のため、今までの製造業中心の「ものづくり

り」に加え、デザイン、ソフト、サービスなど新たな付加価値を生み出す「ことづくり」も含めた“新ものづくり”産業の創出が必要であることから、“新ものづくり”分野において、起業、新事業・新分野への進出を目指す人材を支援し、新産業の創出を図る。

※新ものづくり＝「ものづくり+ことづくり」

※ことづくりとは：新しい価値を生み出す仕組みや仕掛け作りをいう。

【実施内容】

(1) 浜松起業家サロン

情報交換・ビジネスネットワーク構築の場とし、起業を目指す人材を発掘した。さらに、起業に向けレベルアップするための、浜松起業家学校への参加を促した。

会 場：ホテルヴィラくれたけ

参加者：28名

【活動内容】

開催日	内 容	講 師
6月 26日 (火)	「農家民宿くんま遊楽亭あそびやの開業」	くんま遊楽亭あそびや 大平 展子 氏
7月 17日 (火)	「ものづくりイロイロ・起業・会社登記・学校で教えてくれること、くれないこと」	株アイアン・カウボーイ 代表取締役 内藤 兆志 氏
9月 18日 (火)	「りらねっとドタバタ起業奮闘記」	NPO 浜松介護サポート「りらねっと」理事長 村松 眞美 氏
11月 20日 (火)	「起業の苦楽と社会的意義」	株コム・バリュー 代表取締役 花本 篤人 氏

(2) 浜松起業家学校

経営計画、マーケティング等、起業において必要となるノウハウや知識を学ぶ場を提供し、起業家を育成するとともに、「はままつ起業グランプリ」に向けてレベルアップを図った。

【活動内容】

会 場：浜松地域イノベーション推進機構 半田山事務所

参加者：各回 14名～19名

開催日	内 容	講 師
8月 21日 (火)	「起業家の心構え、事業計画書・経営計画作成」	浜松大学 ビジネスデザイン学部 准教授 山田 穎二 氏
8月 28日 (火)	「個人経営、法人、N P O 法人の作り方、経理、税務について」	秋田聰税理士事務所 税理士 秋田 聰 氏
9月 4日 (火)	「労務管理、融資・補助金活用について」	社会保険労務士法人ローム 社会保険労務士 牧野 剛 氏
9月 11日 (火)	「経営者が知らないてはいけない知的財産」	浜松地域イノベーション推進機構 知財コーディネーター 石井 勉 知財総合支援窓口支援員 近藤 達憲

	「金融機関の融資について」	浜松地域イノベーション推進機構 経営コーディネーター 櫻井 紀明 株日本政策金融公庫 浜松支店 融資第二課長 鹿毛 昭弘 氏
9月 24 日 (月)	「プレゼンテーションで決まる 経営戦略」	講師：(株)はあもにい 代表取締役 大野 晴己 氏

(3) はままつ起業グランプリ

“新ものづくり”分野におけるビジネスプランを公募し、ポテンシャルの高いプランを選考し、起業に向けた支援を行った。総応募件数は63件(H23は58件)。

【審査結果】

(学生プラン部門)

賞名	タイトル / 発表者
金賞	Wan Love ~浜松市を愛と癒しの空間で包むドッグカフェ~ 野沢 愛実(浜松大学 3年)
銀賞	遠州バティック 多文化の魅力を生み出す デイマス・プラディ(浜松学院大学 3年)
銅賞	子育てママを応援!! ショッピングカートベスト「HILOE」 高畑 広恵(豊橋創造大学 3年)
1次審査通過者	女の子と美容室・ネイリストをつなぐサイト 鈴木 なな湖(浜松大学 1年)
	地域活性化・廃材利用のハエイチエン！！ 高木 駿(豊橋創造大学 3年)
	おしゃれを気付かせてくれる服 保科 依里佳、中尾 仁美(専門学校浜松デザインカレッジ 2年)

(一般ビジネス部門)

賞名	タイトル / 発表者
最優秀賞	スマイルベリープロジェクト ～みんなが笑顔になれるバリアフリー観光農園を～ 豊田 由美(スマイルベリーファーム)
ベンチャー ビジネス チャレンジ賞	hamajo～はままつの美魔女 ～安心・安全で顔が見える独身女性のためのSNS 伊丹 麻紀子(ジョイナス)
1次審査通過者	エコに一直線！ キューブ型LED照明器具「ホロライト」 城川 綾菜(株)ホロライト
	世界中にボードゲームの魅力を伝えたい！ 一生退屈しないおもしろいゲームの世界へ 吉原 智之(ボードゲーム共和国)
	五感で笑活！～人と人とのきずなづくり～ 鈴木 千春(みつばルーム)

※グランプリ賞、ものづくり賞、ことづくり賞は、該当者なし

【総括】

開業率が低下する中、地域経済の再生と将来への持続的な発展の確保に向け、“新ものづくり”分野において、「はままつ起業プロデュース事業」の活動を通して、地域経済に貢献する起業家を本年5件創出することを目標に事業を開催した。

結果、「はままつ起業グランプリ」一般ビジネス部門1次審査通過者5名のうち、

既に4名が起業に結び付いた。

やる気があり、そして起業を目指す人材をいかに発掘し、起業まで支援できるかが課題であり、浜松市城北図書館起業相談会や浜松起業家サロンの仕組みだけでは、発掘が十分できないことから、今後は、地域金融機関などとの連携も重要である。

浜松起業家学校については、生徒のレベルにより、授業内容（コース）を分ける必要があった。今後は、起業グランプリといったコンテスト形式は止め、起業を目指す人材を発掘し、当機構の経営コーディネーターや専門家などを派遣して、個別にきめ細かく、徹底的に支援する事業に転換していきたい。

(4) 起業に伴う個別相談・販路開拓支援

【目的】

地域ベンチャー企業等の人材、技術、資金など、経営上の課題にコーディネーターが対応し、展示会出展等、今後の販路開拓等に繋がるアドバイスを行う。

【実施内容】

浜松市立城北図書館にて起業支援のための定例相談を実施した。

開催回数：12回（毎月1回、第3水曜日）

合計相談案件：39件

【総括】

合計相談案件は39件の内、その後も継続している案件は31件。相談内容では、経営全般の相談と起業に係る相談が半々ぐらいとなっている。

今後も起業・創業支援、個別相談業務として開催をしていく。

(5) 城北図書館起業家交流サロン事業

【目的】

起業に向けての意識啓発を主眼として、新規創業者、創業予定者を対象にセミナーを開催する。（浜松市立城北図書のビジネス支援サービスの中心に位置づけられる創業支援セミナー）

【実施内容】

年間2回を目安として、創業者向け支援セミナーを開催する。

会場：浜松市立城北図書館

【講座内容】

開催日	内 容	講 師
12月5日（水）	「35歳までに社長になる！あきらめない自分の磨き方」	村松貴通社会保険労務士事務所 所長 村松 貴通 氏
3月2日（土）	「起業家として旅に出るための準備をしよう」ワークショップで学べるビジネスプラン、起業成功の秘訣	システムコラボ・マネジメント 副理事長 中山 司 氏

【総括】

第1回は、市内新規創業者の実体験を中心としたセミナーを開催。実体験に基づく講座については、大変参考になったという意見がある一方、実際の創業準備について聞きたいなど、もう少し実務に踏み込んだセミナーを希望する意見も聞かれた。

第2回は、上記意見を取り入れ、ワークショップを中心に、自己分析や創業に向けての意識啓発を主眼においたセミナーとした。当日、参加者の多くから、好評を頂き、

事業計画の立案相談や、次回の城北図書館相談会に参加したい意向も多く見られた。

本セミナーでは、いわゆる創業予備軍に対して意識付けを行うことで、創業に向けての確固たる意思を形作り、事業計画立案等その後の相談会へ結び付けていくことを目指している。その意味で、今年度のセミナー開催は、成果を上げることができた。

次年度は、市の産業イノベーション構想に基づく、主要6分野を中心に据えた新規創業者向けセミナーを開催していきたい。

(6) B I ネットワーク構築支援事業

【目的】

地域企業における新事業展開や成長産業への進出に当たっての課題、強みとする技術・経験、必要としているニーズ等をヒアリング調査し、マッチングを行い、企業同士の連携や成長分野への新事業展開の促進を図る。

本事業は、独立行政法人中小企業基盤整備機構との連携事業であり、“B I”は「ビジネスインキュベーション」の略称。

【実施内容】

①検討会議

1回目

日時：平成 24 年 11 月 6 日（火）13:30～15:30

場所：浜松地域イノベーション推進機構会議室

参加者：10名

内容：採択された事業を進めるに当たっての役割分担、スケジュールについて確認

2回目

日時：平成 24 年 12 月 4 日（火）13:30～15:30

場所：浜松地域イノベーション推進機構会議室

参加者：10名

内容：本事業で支援する企業群に関する検討

3回目

日時：平成 25 年 1 月 9 日（水）13:30～15:30

場所：浜松地域イノベーション推進機構会議室

参加者：9名

内容：事業化促進マッチング会議の企画内容について検討

4回目

日時：平成 25 年 2 月 5 日（火）13:30～15:30

場所：浜松地域イノベーション推進機構会議室

参加者：12名

内容：事業化促進マッチング会議の役割分担等について確認

②支援候補企業ヒアリング

期間：平成 25 年 1 月 10 日（木）～1 月 17 日（木）

ヒアリング対象企業：中野ハガネ(株)、(株)ディーシーティーラボラトリ、
浜松ヒートテック(株)、サンエイテック、羽立加工(株)

ヒアリング内容：新事業展開の方向性、自社技術の強み及び課題

③事業化促進マッチング会議

日時：平成 25 年 2 月 18 日（月）11:00～16:20

場所：浜松商工会議所 10 階 C 会議室

支援対象企業：浜松ヒートテック（株）、（株）ディーシーティーラボラトリー

参加支援機関：公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構、

浜松イノベーションキューブ、（株）浜名湖国際頭脳センター、

テクノフロンティア浜松、浜松市産業部産業振興課、

浜松商工会議所工業振興課、静岡県中小企業団体中央会西部事務所、

静岡大学イノベーション社会連携推進機構、浜松工業技術支援センター、

浜松信用金庫法人営業部、（株）環境エネルギー投資、

ツネイシホールディングス（株）、コーセーポレートアライアンス（株）

内容：企業のプレゼンテーション、支援機関間の意見交換及び支援対象企業の課題に対する支援策の策定

【総括】

本事業は、独立行政法人中小企業基盤整備機構の負担金を財源として実施した。

事業目的は、起業家等を支援できる機能とスキームを持った地域ネットワークを構築するとともに、支援対象企業の成長分野への事業展開を促進することであり、本事業を通じて、当地域の支援機関と他地域の支援機関との間で、ネットワークを構築するとともに、支援機関相互の連携体制について理解を深めることができた。

また、支援対象企業における課題や今後の方針性を明確化し、支援機関から解決策の提案を受けることで、新事業展開等において事業化を促進することができた。

今後も、今回構築した地域ネットワークを活かして、地域中小企業の新分野への事業展開等を促進していく必要がある。

4 半田山 T B G 活用運営事業

【目的】

新事業創出や産学官連携を目指すベンチャー企業の支援の場として、「半田山 T B G（テクノビジネスゲート）」を整備・運営する。

【実施内容】

半田山事務所において、創業間もないベンチャー企業、産学官連携による研究開発により新技術・新製品の開発を目指す企業等を対象として、インキュベート機能を提供した。

※T B G（Techno Business Gate）

旧（財）浜松地域テクノポリス推進機構が、経営基盤の脆弱な起業家に提供するため半田山事務所内に整備したインキュベート施設で 9 室（最小 35 m²～最大 78.4 m²：全体で 522.8 m²）を有する。

平成 24 年度末 インキュベート施設入居企業 2 社（退去企業 3 社 4 室）
インキュベートルーム入居企業 2 社

【総括】

平成 24 年度に 3 社（4 室）の退去があり、今後施設の有効活用に向けた抜本的な検討を行う。

5 地場産業振興事業

【目的】

地元繊維業界が行う見本市への協力や、新商品・新技術開発、新たな販路の開拓等の取り組みについて支援し、当産地繊維製品の普及・拡大とイメージアップを図り活力強化と需要拡大を促進する。

【実施内容】

(1)繊維製品の普及拡大

ア 2013 ハママツ・コレクション

①テキスタイルビジネス商談会（東京国際フォーラム）

開催日 平成 24 年 5 月 9 日（水）～10 日（木）2013 S/S 1 企業

平成 24 年 11 月 20 日（火）～21 日（水）2013 A/W 1 企業

（ジャパンクリエーション 2013 併催） 1 企業

②ギフトショー（東京ビッグサイト）

開催日 平成 24 年 9 月 5 日（水）～7 日（金）1 企業

平成 25 年 2 月 6 日（水）～8 日（金）1 組合 3 企業

③福岡ファッションコレクション（ホテル・パラッツオ）

開催日 平成 24 年 10 月 3 日（水）～4 日（木）1 組合(6 企業)

内 容 テキスタイルジャパンは、延べ 3 企業の出展が、ギフトショーは、延べ 4 企業・1 組合の出展が、福岡は 1 組合(6 企業)企業の出展があり、テキスタイル及び二次製品を展示了。

3 展示会合計でブース来場者 865 名と取引依頼が 365 件あり、大きな成果を上げることができ、浜松テキスタイルを国内外の繊維関係者に PR することができた。

イ 注染・ゆかた・和装展

開催日 平成 24 年 7 月 7 日（土）～8 日（日）

会 場 ギャラリーモールソラモ

来場者 1,680 名

内 容 注染・ゆかた・和装製品の展示・発表(66点)、浜松注染そめの実演・体験、浜松工業技術支援センターの成果発表を行い、多くの来場者でにぎわい、広く市民に対して浜松産ゆかたの発信ができた。7月 7、8 日は、遠鉄百貨店ロゼにてゆかた無料着付けを実施し、7月 10 日は、学校法人笹田学園にて高校生ゆかた教室を実施した。

ウ 縫の産地フェア

開催日 平成 24 年 6 月 5 日(火)～7 日(木)、6 月 9 日(土)～10 日(日)

会 場 ツインメッセ静岡（シズオカ KAGU メッセ）

内 容 6 企業が出展し、加工開発したテキスタイル、墨染め、柿渋染め等のテキスタイルや半纏等の製品を展示・商談し、販路拡大を図った。

開催日 平成 24 年 11 月 3 日（土）～4 日（日）

会 場 浜松市総合産業展示館第 2 展示場 2 組合 18 企業

来場者 1,900 名

内 容 静岡県繊維協会傘下の会員の新商品及びパネル展示を実施した。地域で生産される最新の繊維製品及び繊維生産技術の PR とアンケート調査を実施し、当地域がファッションテキスタイルの重要な生産

地であることと、地産地消を推進するため広く市民にアピールした。

エ 異業種コラボレーション推進事業

開催日 平成 24 年 11 月 14 日（水）～16 日（金）

会 場 インテリア・トレンドショー・ジャパンテックス（東京ビッグサイト）

内 容 自社製造販売が出来る企業を育てるため、組合事務局、織布企業、染色企業、デザイナーで構成する 12 企業による実行委員会を組織し、開発した新たなオリジナル製品を出展した。81 人のブース来場者と取引依頼が 8 件あり、アパレル企業以外との商談が出来た。

オ 地域産業マーケティング強化支援事業

開催日 平成 24 年 11 月 6 日（火）～7 日（水）

会 場 TN 展（スタジアムプレイス青山）

内 容 企画・提案型の纖維素材開発に意欲の高い纖維協会傘下の織布企業グループ 9 社を取りまとめ、新商品の情報発信に当たって、生産技術の優秀性、品質の高さを積極的に P R し、関東・関西での展示・商談会に当たっては、開発したテキスタイルの品質及び二次製品の特長、着用時の機能効果を積極的に P R した。92 人のブース来場者と取引依頼が 44 件あった。

カ 繊維産業ファッショントラベル推進事業

（ファッショントラベル業界と協働した新商品の開発）

内 容 繊維協会傘下の 3 組合及び会員企業 10 社とコーディネーター等専門家によるワーキング部会を開催し、デザイナー等から最新情報を得ながら高付加価値テキスタイルや二次製品の開発を行った。専門家、デザイナーと各 5 回打合せを行い、作成総点数は 134 点に上る。

キ 繊維産業ファッショントラベル推進事業（首都圏への遠州織物ブランドの発信）

開催日 平成 25 年 2 月 21 日（木）～22 日（金）

会 場 遠州織物コレクション（スタジアムプレイス青山）

内 容 遠州産地の情報発信不足を解消するため、産地単独展である遠州織物コレクションを 3 組合 10 企業が、開発した新企画商品を展示し、産地イメージの向上、新規市場への開拓及び販路の拡大を図った。また、前記新商品の提案をグループごとに情報共有しアパレル・デザイナー等に個別訪問し販路の拡大を図った。

ク 浜松シティファッショントラベルコンペ事業

開催日 平成 24 年 12 月 2 日（日）

会 場 えんてつホール

内 容 浜松地域の綿関連素材を用いた作品づくりを通じて、次代を担うクリエイターと纖維業界との有機的な関係を構築するとともに、綿織物産地「浜松」の情報を広く発信し纖維産業の振興を図った。

地方のコンペでは最大のものであり、全国からデザイン画 4,105 点の応募が寄せられ、デザイナー等による第一次審査を通過したデザイン画 30 点が作品に仕上げられ、最終審査をプロのモデルによるファッションショー形式で行った。素材提供については、産地企業 30

社の協力があり綿素材の産地浜松をアピールした。

ケ 展示コーナー(産業展示館北館)の整備

内 容 繊維8組合の製品唯一の展示場所である浜松市総合産業展示館北館
2階の常設展示コーナーに、繊維産業の振興・広報のため、「武襯者
(MUSHA)」の展示5体とサインスタンド等を整備した。

(2) 「バイクのふるさと浜松2012」実行委員会事務局運営事業

開催日 平成24年8月25日(土)~26日(日)
会 場 浜松市総合産業展示館
来場者 21,000人
内 容 バイクフォーラム、交通安全宣言パレードラン、タッチ&トライ、最新モデルの展示、コンセプト車両の展示、ものづくり企業展等を実施した。

【総括】

静岡県、浜松市等と連携し、地元の繊維業界が行う見本市への出展や各種の販路開拓等の取り組みについて協力し、浜松産の繊維製品の普及・拡大を図った。

販路開拓・需要拡大のために、従来の販売ルート以外の様々な展示会に出展し、継続することで、リピーターも増えるので、今後も引き続き展示会への出展を支援していく。

「バイクのふるさと浜松」は、バイクの持つ素晴らしい魅力を広めるとともに、「バイクのふるさと・浜松」を全国へ発信することを目的として開催するイベントである。引き続き、バイクの国内需要の拡大に努めるとともに、産業、文化、観光など多方面にわたり、バイクのメッカ浜松として全国へ向けて情報発信していく。

6 技術開発・新産業創出支援事業

(1) 浜松地域CFRP事業化研究会(参加企業38社)

【目的】

次世代環境車に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特に CFRP 材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業における CFRP の活用について調査研究及び技術の確立支援を行う。

【目標】

①新会員への研修、実習

7割近い新会員が、CFRP 材料は未経験であることから、これまでの研修・研究に関する内容を、最小限の負担で、効率よく理解させる。

②本格的事業化・製品化

第1フェーズの段階を経て、事業化に向けた有料のプロジェクトを発足する。

【実施内容】

(研究会の実施) 会場: 静岡大学

開催日	内 容	講 師
9月25日(火)	【第1部】 1) 浜松地域CFRP事業化研究会(フェーズⅡ) の概要 2) 役員の委嘱および選任について 3) 浜松地域のCFRP事業化への取り組み	浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹 (株)ヤマハビジネスホールディングス 室井 國昌 氏

	<p>①浜松地域 CFRP 事業化研究会の 今までとこれから</p> <p>②「CFRP の二輪車強度部材への適用」</p> <p>③「CFRP 用途開発の考察」</p>	<p>ヤマハ発動機㈱ 橋内 透 氏 ㈱キャップ 吉田 透 氏</p>
	<p>【第2部】特別講演</p> <p>①「複合材料に関する岐阜地域を中心とした 産官学連携事業について」</p> <p>②「炭素繊維複合材料の技術動向と いしかわ炭素繊維クラスターの紹介」</p>	<p>財団法人岐阜県研究開発財団 伊牟田 守 氏</p> <p>いしかわ炭素繊維クラスター、 金沢工業大学 西原 正浩 氏</p>
	【第3部】静岡大学工学部 試作研究施設見学会	
	【第4部】交流会 会場：高柳記念未来技術創造館	
1月 28 日（月）	<p>1) 講演</p> <p>①複合材料概論</p> <p>②熱可塑性プリプレイグ材の現状と弊社の 取組み</p> <p>2) プロジェクト提案</p> <p>熱可塑性UDテープの試験制作体制構築への 提案</p> <p>3) 公的開発補助金についての説明</p>	<p>静岡大学 島村 佳伸 氏 丸八㈱ 菅原 寿秀 氏</p> <p>CFRP 事業化研究会 会長 室井 國昌 氏</p> <p>浜松地域イノベーション推進機構 櫻井 紀明</p>

(理事会の実施) 会場：浜松地域イノベーション推進機構 交流室

開催日	内 容
10月 22 日（月）	<p>理事会</p> <p>1) 今後3年間の計画、目標</p> <p>2) 本期の実施計画</p> <p>①成形実習、②見学会、③講演会、④事業テーマ探索、⑤その他</p> <p>3) その他</p> <p>討議結果 1) 情報収集・発信の強化；メーリング・リストを新設</p> <p>2) 新規会員の現状・ニーズ調査；今後の活動へ展開する。</p>
12月 25 日（火）	<p>理事会</p> <p>1) 新規会員紹介：日星電機㈱ 他</p> <p>2) アンケート結果報告</p> <p>3) 新規会員への対応</p> <p>4) 来年度の活動について</p> <p>5) その他懸案事項</p>

(プロジェクト事前検討会の実施) 会場：静岡大学

開催日	内 容
2月 22 日（金）	<p>1) プロジェクト参加企業紹介</p> <p>2) 趣旨説明</p> <p>3) 規約について</p> <p>4) 特許利用について</p> <p>5) 今後のスケジュール、その他の懸案事項について</p>

【総括】

第2フェーズは、本格的事業化を図るため、まず体制を一新した。企業から元ヤマハの室井氏を会長に迎え、静岡大学の早川准教授、島村准教授を副会長に委嘱した。

また第1フェーズの中心メンバーに理事に就任いただき、理事会で議論することとした。

新入会員は、CFRPについてビギナーが多いため、アンケート調査を実施した。基礎技術の修得のため、第1フェーズの講演資料の提供をはじめ、静大での成形実習を企画している。(来季実施予定)

本格的な事業化を目指すために、基礎ユニットとして、炭素繊維束を開織し一方向(UD)に並べ、流動性の低い熱可塑性樹脂を含浸させたテープを創成するプロジェクトが、室井会長から提案された。参加企業を募集し会合を持った結果、6社が参加した。必要経費は、会員企業で負担し、公的補助金の獲得も検討する。

課題としては、技術的には過去に実績がある技術のため、実現の可能性が高く、必要な資金獲得が最も重要となる。浜松市などの開発補助金を当面の目標としたい。いずれにせよ、理事会で検討し、実施体制を構築していきたい。

(2) 浜松地域チタン事業化研究会（参加企業：26社、1団体）

【目的】

次世代環境車に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にチタン材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるチタンの活用について調査研究及び技術の確立を支援する。

【目標】

平成24年7月をもって3年間の節目を迎えた。これを契機として、事業研究会の活動も、技術習得・人材育成及び技術シーズ探索を中心とした第1フェーズから、本格的な事業化・製品化を視野に活動することとなった。

【実施内容】

①最終講演会（フェーズI）の実施 会場：オークラアクトシティ浜松 平安の間

開催日	内 容	講 師
6月7日（木）	<p>【第1部】成果報告</p> <p>1) 活動実績報告</p> <p>2) プロジェクト報告</p> <p>①鋳造</p> <p>②プレス</p> <p>③マリン</p> <p>④メディカル</p>	<p>浜松地域イノベーション推進機構 山田 徹 (株)橋本エンジニアリング 生田 礼次 氏 (株)榛葉鉄工所 松本 和佳 氏 (株)増田酸素工業所 増田 久雄 氏 橋本螺子(株) 橋本 秀比呂 氏</p>
成果品展示会		

	<p>【第2部】特別講演</p> <p>①チタン製コンシューマープロダクトの可能性 ②チタン及びチタン合金の研究・開発最前線</p>	<p>(株)セブン・セブン 鶴本 晶子 氏 東北大学 新家 光雄 氏</p>
【第3部】交流会 会場：オークラアクトシティ浜松 30階 パールの間		

②研究会（フェーズⅡ）の実施 会場：静岡県浜松工業技術支援センター 大研修室

開催日	内 容	講 師
12月6日（木）	<p>【第一部】研究会の概要</p> <p>1) 浜松地域チタン事業化研究会（フェーズⅡ）について 2) 役員の委嘱および選任について</p>	<p>浜松地域イバーション推進機構 山田 徹 浜松地域イバーション推進機構 砂川 芙美子</p>
	<p>【第二部】浜松地域企業の技術紹介</p> <p>1) MIMによるチタン製金管楽器用マウスピースの開発 2) 木管楽器用リガチャー（締め具）への新素材適用～真鍮からアルミへ、そしてチタン！ 3) 倭吉見製作所の開発した形状記憶合金製品と将来展望について</p>	<p>(株)ベストプラス 濱永 康太 氏 有限会社富永製作所 富永 誠一氏</p> <p>(株)吉見製作所 吉見 幸春 氏</p>
	<p>【第三部】特別講演</p> <p>1) 自動車用チタン合金の開発（排気系、エンジンバルブ、コンロッド等） 2) 地域の強みを活かした共同受注ネットワーク「チタンクリエーター福井」の活動とこれからの展望</p>	<p>新日鐵住金㈱ 大塚 広明 氏</p> <p>(株)西村金属 西村 昭宏 氏</p>

③工場見学会の実施

開催日	内 容
9月7日（金）	<p>㈱神戸製鋼所 高砂製作所（兵庫県高砂市荒井町） チタンの紹介、高砂製作所の説明、見学（溶解工場・鋳造工場）、質疑応答</p> <p>㈱神戸製鋼所 加古川製鉄所（兵庫県加古川市金沢町1） 加古川製鉄所の説明、見学（冷間圧延工場・チタンの燃焼、酸洗ライン） 質疑応答</p>
3月19日（火）	<p>㈱西村金属（福井県鯖江市丸山町） 工場見学、質疑応答</p> <p>チタンクリエーター福井（全7社） 情報交換会</p>

【総括】

第1フェーズの活動は、4つのプロジェクト（P/J）を中心に行った。総てのP/Jが、最終製品を試作し、提案した。中でもメディカルP/Jの医療器具や、プレス部会の茶漉しなどは、販売売上を計上した。これらの活動は、チタン協会から高い評価を受け、協会誌に詳細が紹介されることになった（4月発行予定）。また、メディカルP/Jは、事業協同組合「HAMING」として発足し、4社の参加を得て本格的に事業化に取り組むことになった。その他、ラドルは、大きな需要が見えてきたため、コスト低減を図る量産技術開発が必須となってきた。

いずれも課題としては、試作段階から必要な量産技術の確立と販路開拓へと移ってきたと思われる。

（3）浜松地域マグネシウム事業化研究会（参加企業：44社）

【目的】

次世代環境車に必要とされる、軽量化・高強度化・高性能化に対応するため、特にマグネシウム材料に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるマグネシウムの活用とその成形技術について研究開発及び知識・技術の習得を図る。

【目標】

具体的な対象製品を設定し、その製作過程でマグネシウムの成形技術を構築し、技術の高度化、差別化を図り、新製品への応用展開を行う。対象製品として、車椅子を選定。

【実施内容】

①研究会全体会議（会場：浜松商工会議所会館ほか）、工場見学会

開催日	内 容	講 師
第2回研究会 5月 11日（金）	事業化研究会の今後の活動について（提案） (参加者 33名) 要素技術の差別化戦略に基づく技術紹介 ①通電加熱によるキャビティ内表面の温度制御技術について ②2輪車リアアームにおけるアルミ展伸材と鋳造材の溶接 ③国内外におけるマグネシウム部品の実用化動向と弊社のマグネシウム技術戦略 ④動的再結晶を利用したマグネシウム細径連鉄棒の鍛造技術開発 グループ討議 部会：①切削加工部会、②溶接・接合部会、 ③鋳造部会 プロジェクト： ①車椅子、②その他	浜松地域イノベーション推進機構 技術コーディネーター 山田 徹 (株)キャップ 代表取締役 高井 三男 氏 (株)協栄製作所 開発部 部長 平口 輿志継 氏 (株)アーレスティ 技術部 技術開発課 石附 久継 氏 宮本工業(株) 技監 関口 常久 氏
第3回研究会 7月 27日（金）	技術講演（参加者 25名） ・当社のマグネシウム板材特性とその加工（溶接、切削他）、製品例 ・部会活動、プロジェクト活動のルールについて	権田金属工業(株) 専務取締役 権田 善夫 氏 浜松地域イノベーション推進機構 技術コーディネーター 山田 徹

	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチマテリアル製超軽量車椅子の開発 	橋本エンジニアリング㈱ 代表取締役社長 橋本 裕司 氏
	<p>グループ討議 部会：①切削加工部会、②溶接・接合部会、 ③鋳造部会 プロジェクト：①車椅子 ②その他</p>	
第1回工場見学会 11月2日（金） 宮本工業㈱ 船生工場	<p>宮本工業㈱ 船生工場（参加者 12名） 会社概要説明 「アルミニウム・マグネシウム鋳造の現状と将来展望」 鋳造現場見学</p>	宮本工業㈱ 技監 関口 常久 氏
第1回溶接講習会 12月20日（木） ㈱榛葉鉄工所	<p>講義（参加者 23名） マグネシウムの接合 実習指導 マグネシウム溶接実技指導</p>	日本大学生産工学部 機械工学科 教授 朝比奈 敏勝 氏 ㈱セイユー 代表取締役 加藤 誠之 氏
第2回溶接講習会 1月16日（水）	<p>講義（参加者 20名） マグネシウム合金溶接の基礎とモノづくり</p>	木ノ本伸線㈱ マグネシウム開発チーム 上田 光二 氏
第4回研究会 3月28日（木） アクトシティ研修交流センター	<ul style="list-style-type: none"> ・活動実績報告（参加者 70名） ・プロジェクト報告「マルチマテリアル車椅子」 ①プロジェクトの概要 ②車椅子の構造設計 ③ホットスタンピング成形 ・マグネシウムにおける最新製品・技術動向 ・各地域マグネシウム研究会の活動 <p>①東北マグネシウム研究会の活動実績報告</p> <p>②茨城マグネシウム工業会の活動実績報告</p> <p>③熊本での KUMADAI マグネをはじめとしたマグネシウム事業への取組みについて</p>	<p>浜松地域イノベーション推進機構 技術コーディネーター 山田 徹</p> <p>橋本エンジニアリング㈱ 代表取締役社長 橋本 裕司 氏</p> <p>㈱榛葉鉄工所 技術部 技術課 課長 渡辺 敬之 氏</p> <p>㈱キャップ 代表取締役 高井 三男 氏</p> <p>日本マグネシウム協会 専務理事 小原 久 氏</p> <p>東北マグネシウム研究会 会長（筑波ダイカスト工業㈱）小河原 和夫 氏</p> <p>茨城マグネシウム工業会 事務局長 白石 平九郎 氏</p> <p>くまもとマグネ商品化研究会事務局（㈱くまもとテクノ産業財団 総括審議役）樋口 雅之 氏</p>

②車椅子プロジェクト

前期から、対象製品として、車椅子を取り上げ検討してきた。有志の会員企業にデザイナーや車椅子アドバイザーを加えて構想を練ってきた。その過程で、橋本エンジニアリング㈱が、浜松市開発補助金を獲得したので、研究会として、プロジェクトへの参加を呼び掛け、図1に示すスキームで、プロジェクトを発足した。活動は、数十回に及び、各社の協力により、1月末開催の浜松メッセに出展することが出来た。

③溶接部会

マグネシウムの溶接は、これまで需要も見込めず、素材、特に溶接棒の入手が困難だったため、行われることが少なかった。研究会として、素材を準備し、専門の講師や、実技指導できる技術者を招聘し、溶接講習会を2度にわたり実施した。

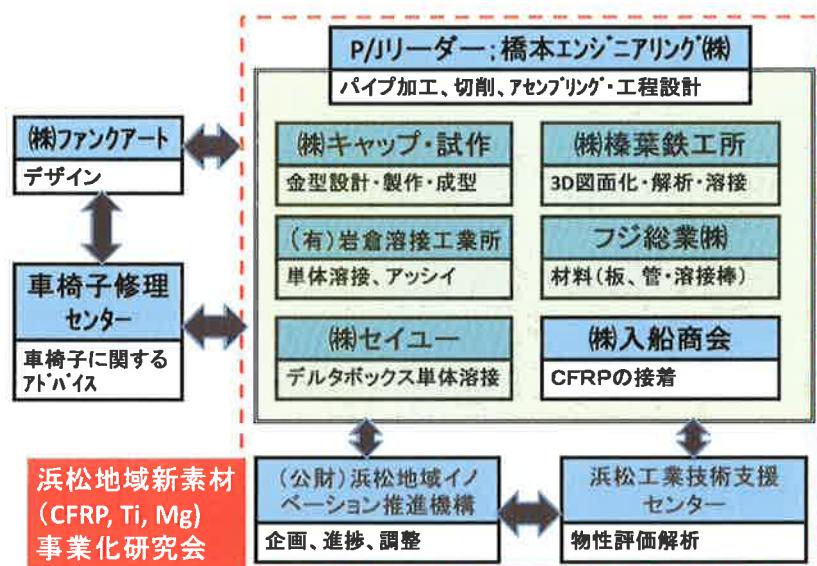


図1 車椅子プロジェクトのスキーム

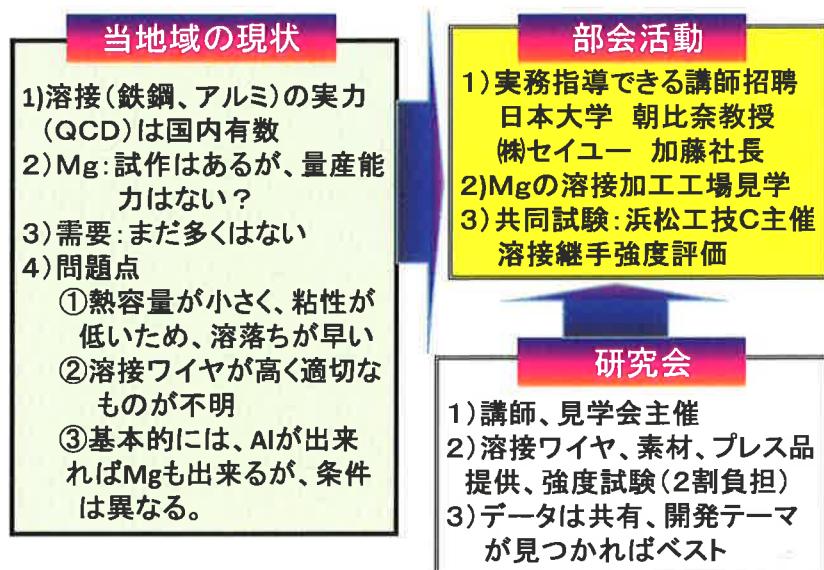


図2 溶接部会

【総括】

本年度の研究会活動は、全体会議3回、工場見学会1回、プロジェクト進捗会議10回、溶接部会を新設し2回の講習会などを非常に活発に行った。加えて、浜松メッセでの車椅子の展示や、プレス溶接部品のPR、更には、日本マグネシウム協会賛助会員技術交流会での報告、各地域マグネシウム研究会のサミット開催など、大きな成果を挙げた1年であった。

今後の課題として、

- 1) ホットスタンピング技術、溶接技術の熟成、高度化
- 2) 表面処理部会の新設
- 3) 新技術、新製品の探索
- 4) MedTech, 福祉機器展への出展
- 5) フェーズIのまとめと集大成(平成26年3月)

(4) 浜松地域ウルトラハイテン事業化研究会（参加企業：37社）

【目的】

次世代環境車に必要とされる、軽量化・強度化・高性能化に対応するため、特にウルトラハイテン材に関する技術動向・技術情報の提供を行うとともに、浜松地域企業におけるウルトラハイテンの活用について調査研究及び技術の確立支援を推進する。

【目標】

技術の深耕を目的とした専門部会を設立する。

【実施内容】

①会員企業ヒヤリング

ハイテンを生産又は積極的に取り組んでいる企業、共同開発を希望している企業などを中心に9社を訪問し、現状の課題、ニーズ、研究会への要望などをヒヤリングした。併せてハイテンの生産現場を中心に工場見学も行った。

〔訪問先企業〕

〔訪問先企業〕

- ・平岡ボデー： 10月 5日 (金)

- ・三洋製作所 : 10月18日 (木)
- ・ベルソニカ : 10月19日 (金)
- ・三幸製作所 : 10月23日 (火)
- ・ソミック石川 : 11月 9日 (金)
- ・岡本プレス工業 : 11月15日 (木)
- ・第一工業 : 11月26日 (月)
- ・協和工業 : 11月29日 (木)
- ・先端力学シミュレーション研究所 ; 12月11日 (火)

②セミナーの開催

開催日 : 平成 24 年 11 月 1 日 (木)

会 場 : 静岡大学工学部総合研究棟 10 階 会議室

参加者 : 22 名

内 容 : 講演&パネルディスカッション

[講演]

1) 「自動車用ハイテン～その誕生と進化の足跡～」

(株)特殊金属エクセル 新機能材料研究開発本部 工学博士 細谷 佳弘 氏
(元 JFE スチール(株) マテリアル研究所 理事 主席研究員)

2) 「ウルトラハイテンの種類と特性」

JFE スチール(株) 理事 薄板研究部長 工学博士 濑戸 一洋 氏

3) 「ウルトラハイテンの成形課題と対策」

JFE スチール(株) 薄板加工技術研究部 主任研究員 (副部長)
工学博士 山崎 雄司 氏

[パネルディスカッション]

テーマ「浜松地域企業の技術へ生かせ！ウルトラハイテンの可能性」

(パネラー)

(株)特殊金属エクセル 新機能材料研究開発本部 工学博士 細谷 佳弘 氏

JFE スチール(株) 理事 薄板研究部長 工学博士 濑戸 一洋 氏

JFE スチール(株) 薄板加工技術研究部 主任研究員 (副部長)

工学博士 山崎 雄司 氏

JFE スチール(株) 薄板センター部 主任部員 工学博士 占部 俊明 氏

モディレーター : 静岡大学 特任教授 中村 保 氏

③成型部会の立ち上げ

上記①のヒアリングの結果、図3のスキームによる成型部会を提案し、6社と静岡大学の参加を得た。

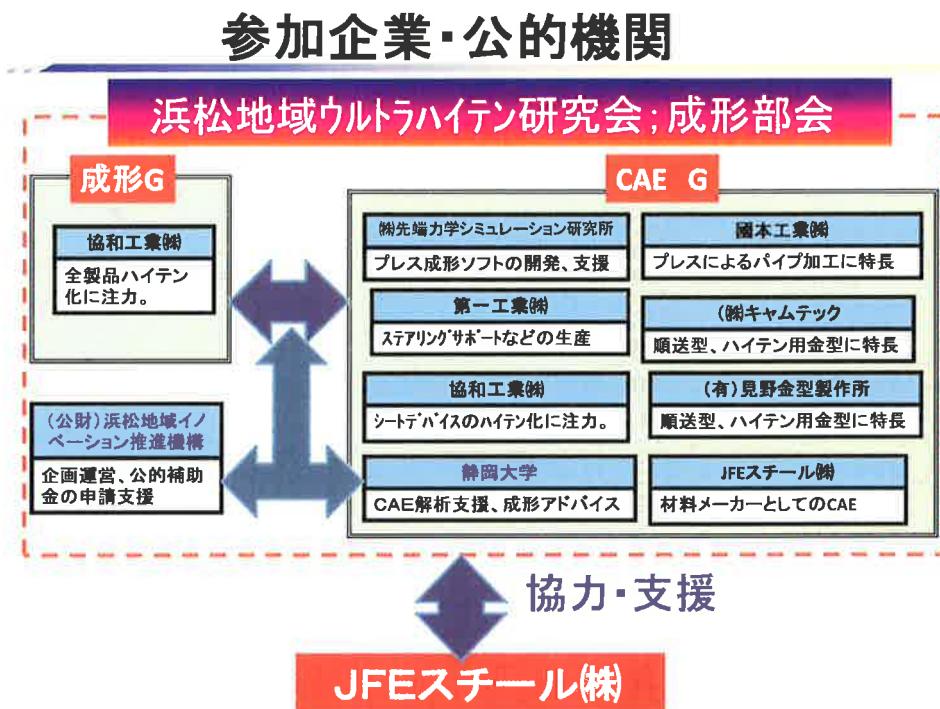


図3 成形部会のスキーム

参加企業全社との会合を、第1回として開催し、静岡大学 早川准教授に成形部会部会長を嘱託した。続けてJFEスチール㈱との合同会議を開催し、今後の進め方を協議した。

第1回：平成25年2月14日（木）会場：静岡大学工学部総合研究棟3階

第2回：平成25年3月18日（月）会場：浜松地域イノベーション推進機構

【総括】

ウルトラハイテン事業化研究会は、他の3研究会のように、共通テーマを設定し試作評価を通して成形技術開発を行うスタイルとは異なっている。活動として年1回程度の技術セミナー開催に限られている。その理由として以下が考えられる。

- ① 既に各社で780MPa～980MPa級まで、生産している企業が多数あり、固有の技術ノウハウとなっている。共通で行うと、それが流出する恐れがある。
- ② ハイテンのプレスが出来ることが、受注競争力となっており、会員同士がコンペティターであることが多いため、共同で行うことは考えにくい。
- ③ 980MPa以上になると、顧客からの指示、協力、そして顧客の有償支給を行う素材メーカーと三位一体となったら開発体制が必要である。必然的に個別開発となる。

そのような状況のなかで、共同研究または分科会に参加したい希望が数社あり、ヒアリング訪問した企業のなかで積極的に取り組む意向を示した会社があった。同社は、全製品をハイテン化しかつ現状レベルから1, 2グレード高いハイテン化を目指している。型も自社型のため、トライアルも可能であるとのことであった。

一方CAEなら、共同してやれるのではないかとの提案が数社あった。そこでト

ライアルが出来る企業を中心に、CAEを共同で行いたい企業で構成する「成形部会」(自由応募)を設置し、トライアル結果をCAEにフィードバックする相互関係を築けないか検討した。その構想の下に、研究会会員企業に自由応募したところ、図1のスキームで成形部会が発足した。

ここで、素材メーカーJFEスチール(株)の参画が必須であり、静岡大学早川准教授の動向のもと、JFEスチール(株)の賛同を得て、発足に至った。第2回成形部会の同社との合同会議は、友好的な雰囲気のなか、極めてスピーディな素材、材料物性データの提供が示された。今後秘密保持契約を同社と結び、静岡大学も含め、協力関係を構築することが最大の課題である。

(5)浜松地域パワーエレクトロニクス事業化研究会（パワエレ研究会）

【目的】

浜松地域の輸送用機器産業において要求されているエレクトロニクス化に対応するため、EV車やサービスロボット、新エネルギー発電等、大電流を使用するパワエレ技術の習得が不可欠となってきている。パワエレ研究会は、この技術を積極的に取り込もうとする事業所への人材養成及び事業化支援を行い、地域への定着及び新事業の創出を行うことを目的とする。

【実施内容】

①会員企業へのヒアリング実施

会員企業を中心に9社をヒアリングし、パワエレ研究会に対する要望や意見、期待などを確認した。

②制御ソフトウェア分科会の立上げ準備委員会の開催

パワエレ研究会の活動の主体を事業化を目指した3つの分科会に移行するため、先ず、制御ソフトウェア分科会を立ち上げるべく準備委員会を開催した。

開催日：平成24年4月12日(木)、6月28日(木)、
9月3日(月)、9月19日(水)

③セミナー「制御ソフトウェア開発の課題」の開催（一般公開）

パワエレ分野における制御ソフトウェアの開発手法について、半導体メーカーの第一線の技術者を講師に迎えてセミナーを実施した。

開催日：平成24年9月3日(月) 14:00～17:00

受講人員：18名(9社)

④平成24年度総会・技術講演会の開催

・平成24年度総会

開催日：平成24年11月12日(月) 13:00～14:00

会場：グランドホテル浜松 2階 白鳥の間

内容：平成23年度までの活動報告、新会長の選出、24年度以降の活動計画
説明、意見交換等

・技術講演会

開催日：平成24年11月12日(月) 14:30～17:00

会場：グランドホテル浜松 2階 レアンジェの間

内容：「パワーエレクトロニクスへの期待

～モータ／キャパシタ／ワイヤレス～」

講師：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻

教授 堀 洋一 氏

参加者数：68名

⑤制御ソフトウェア技術セミナーの開催

開催日：平成 25 年 3 月 7 日（木）～ 平成 25 年 3 月 28 日（木）（4 日間）

会 場：浜松地域イノベーション推進機構 半田山事務所研修室

内 容：「モータ制御の基礎」 「リアルタイム OS の基礎」

講 師：静岡理工大学 大学院理工学研究科 教授 高橋 久 氏 他

受講人員：15 名（8 社）

【総括】

会員企業へのヒアリングや幹事会を通して、モータ制御技術の習得が直近での重要課題との感触を得た。これを受け、この分野の理解を深めるため、また制御ソフトウェア分科会の立上げを推進するため、㈱ルネサスソリューションズの協力も得て、制御ソフトウェア関連の技術セミナーを企画、実施してきた。しかしながら、分科会立上げは未だ実現していない。今後は、幹事会等の議論を踏まえ、事業化テーマを早急に明らかにして、分科会立上げを目指す。

(6) 新産業創成事業

【目的】

自動車の組立に用いられる産業用ロボットの市場が形成される中、医療や介護・福祉など高齢者を中心とした日常生活支援、あるいは農林水産業従事者に対する収穫物の運搬支援、製造業分野の重作業支援など、サービスロボットへの期待も高まっている。

これらの分野は、ユーザーのきめ細かなニーズに応じた設計、開発能力が求められ、大企業が苦手とする多品種少量生産といった市場になることが予想される。これは、当地域の企業にとって新たな需要が喚起されるものと期待できる。

この様な背景を基に、地域企業にとって将来大きな需要が期待できるサービスロボットの分野について、その技術動向や市場動向を中心に調査を行う。

【実施内容】

サービスロボット分野に参入している中小企業を中心にヒアリングを実施した。訪問先は下表のとおり。「サービスロボット市場の現状と浜松地域中小企業の参入の可能性」調査報告書を作成した。

【総括】

パワエレ研究会の中にサービスロボット分科会を平成 25 年度に立ち上げる計画である。この分科会テーマ立案の時、この報告書を活用できるよう留意してまとめたが、参入の可能性に言及するまでには至っていない。不十分な点は今後のパワエレ研究会の中で継続して調査、研究していきたい。

【ヒアリング先一覧】

訪問日	訪問先	面談者	事業内容
12 月 3 日	(公財) 北九州産業 学術推進機構 産学 連携統括センター ロボット開発支援部	部長 善甫 英治 氏 担当課長 松崎 一成 氏 企画管理課長 森永 健一 氏	ロボット関連技術の研究成果の実用化、事業化を産官学と一体となって推進。
12 月 4 日	(株)テムザック (福岡県宗像市)	常務取締役 久米 康歳 氏	ロボットの製造、販売。人型ロボットの研究開発や製品化を積極的に展開。

12月19日	(株)ジー・ピー・イー (長野県上田市)	代表取締役 工藤 武和 氏	自動組立機、自動検査機、治工具等の製造、販売。
12月19日	(株)西澤電機計器製作所 (長野県埴科郡)	取締役総務部長 中島 信行 氏 技術顧問 小林 英敏 氏	電気計測器の研究開発、製造、販売。
12月20日	(株)オリィ研究所 (東京都新宿区)	代表取締役 工藤 武和 氏	人的遠隔操作による癒し系ロボットの研究開発。
12月26日	(独)産業技術総合研究所 (つくば市)	研究グループ長 松本 治 氏	フィールドロボティクスの研究開発。
1月15日	(株)岩田鉄工所 (岐阜県羽島市)	代表取締役 岩田 勝美 氏	IT機器、自動車や航空機の精密機械加工部品の受託製造、販売。

(7) 「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」への支援事業

【目的】

「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」は、ものづくり地域・浜松の高い技術力・開発力と、医療ニーズ・医学シーズとの異分野融合により、連鎖的・継続的な地域イノベーションを創出し、健康・医療関連産業の基幹産業化を通じて、地域の活性化を目指している。浜松医科大学内に設置された「拠点」を、ワンストップ窓口として機能させるため、地域の総合的な産業支援機関である浜松地域イノベーション推進機構として、その活動を支援し、連携を図る。

【実施内容】

具体的な事業内容としては、吉田拠点長、松浦事業総括の2人を浜松医科大学内の「拠点」に派遣し、次の活動を支援した。

- ・事業運営委員会ワーキング会議（実務者会議）、拠点事務局ミーティングの開催
- ・医工連携推進・産学連携推進・事業化のためのコーディネート活動
(コーディネーター エコシステムチームへの参加など)
- ・事業化支援活動としての主催・共催イベント等の開催への協力
(健康医療産業への参入セミナーの講師担当、医療現場との情報交換会でのサポート、医療現場見学会のコーディネートなど)
- ・事業化支援のための関連団体との連携
(静岡県製薬協会、日本医療機器工業会のセミナー及び会合への参加)
- ・事業化支援・情報収集のためのシンポジウム・講演会等への参加
(医工連携推進シンポジウム、人間・ロボット共生リサーチセンター研究会、地元企業による医療機器の開発・改良製品説明会、ファルマバレー プロジェクト成果発表会 2012 など)
- ・事業化（展示出展）支援・ブース展示のためのイベント等への参加
(MEDTEC Japan 2012、メディカルショー ジャパン&ビジネスエキスポ 2012、第39回国際福祉機器展、第25回日本内視鏡外科学会 医工連携 出会いの広場、はままつメッセ 2013 など)
- ・産学官連携ネットワークへの参画
(静岡新産業集積クラスター成果発表会への参画、JST 地域ブロック会議（関東ブロック）での発表)
- ・国際的な医療クラスターの情報収集

(米国西海岸における医療機器関連の展示会、病院・企業の視察への参加)

- ・事業化・起業化（協同組合 HUMING の設立）への支援
- ・「医工連携スタートアップ支援事業」の実施、フォローアップほか

【総括】

計画されていた主催・共催イベントの開催や事業化支援のためのセミナー、講演会、イベント等への参画は、概ね実施できた。

事業化・起業化としては、商品化1件（デジタル喉頭ストロボ）及び起業化1件（協同組合 HUMING の設立）の実績ができたことは、今後の活動の弾みとなる。

また、今年度初の試みとして、「アイデアの実現性の検証」が必要な課題について支援するための「医工連携スタートアップ支援事業」を実施し、応募のあった中で6件を採択・支援した。今後、来期以降で拠点にてフォローアップを実施していく。

7 産学官共同研究促進事業

（1）新事業開発促進補助金

【目的】

浜松市内の中小企業者が大学等との連携により、新たな技術や製品を事業化するために実施する事業化可能性調査や研究開発に対して、補助金を交付する。これにより、中小企業者の独創的な新技術開発や新製品開発を促進する。

予算：2,070千円、補助額上限 50万円（補助率 1/2）

【目標】

各申請書の目標を年度内に達成し、補助金支給手続きのメドをつける。

【実施内容】

申請があった3件について審査員5名による審査の結果、下記2件を採択した。各々の開発結果と確定補助金額は下記のとおり。

①有勝美 浜松うなぎ復活のためのフィリピンシラスの選別研究

フィリピン近海のシラスを採取し、愛知工業大学西村准教授にDNA鑑定を依頼した。地域ごとに種を特定することができ、今後の展開に有用な情報が得られた。確定補助金額：50万円

②ハマニ化成㈱ 通気性型材料による成形不良の削減、意匠性の向上による新事業分野（住宅）参入の可能性調査

通気性型材料を用いて型を製作し、真空成形にてコンセントカバーを試作した。光を反射させたとき表面にわずかな縞模様が見られ、成形条件の最適化が今後の課題である。確定補助金額：43万円

【総括】

補助金の額や時期の設定が企業の要望に合っていないことにより、応募件数が少なかったと思われる。平成25年度は、浜松市新産業創出事業費補助金へ統合する。

公Ⅲ 研究・技術開発成果の事業化

地域イノベーション戦略推進事業やサポイン事業等により、次世代産業分野、成長戦略分野における研究開発や事業化を促進するとともに、最終出口である市場や販路の開拓にまでつなげる。

1 地域イノベーション戦略推進事業

【目的】

「浜松・東三河ライフオトニクスイノベーション」構想に基づいて、光・電子関連技術を基盤に「輸送機器用次世代技術産業」「健康医療産業」「光エネルギー産業」「新農業」の4つの産業の基幹産業化を推進する。

【実施内容】

※事業内容の詳細は、別添の参考資料「平成24年度 浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会 事業報告」を参照。

(1) 異分野・他分野融合の場「知のプラットフォーム」

ア イノベーションアリーナ運営会議の開催

イノベーションアリーナ運営会議を10回開催し、アリーナ活動の全体管理・調整を行った。

イ 事業化検討セミナーの開催

新規の事業化テーマを検討するために、地域企業等に対してシーズ技術の説明会(セミナー)を3回開催した。

第1回セミナー：平成24年11月9日（金）96名参加

「これから農業におけるビジネス化と機械産業（IT含む）の関わり」

第2回セミナー：平成25年1月24日（木）16名参加

「連続波テラヘルツ分光計測装置の動向」

「テラヘルツ分光技術による医薬品評価の動向」

第3回セミナー：平成25年1月25日（金）22名参加

「医薬品評価科学へのテラヘルツ波技術の導入研究」

「連続波テラヘルツ波帯分光測定装置の開発と実用化への課題」

ウ 展示会への出展

①「画像センシング展 2012」への出展

「浜松地域オプトロニクスクラスター事業」（平成23年度終了）の成果である製品の普及を図るため、画像機器及びシステムの展示会である「画像センシング展」に出展した。

会期：平成24年6月6日（水）～8日（金）

会場：パシフィコ横浜

出展企業：8社及び当財団

②「オプトロニクスフェア 2012 in 浜松」の開催

オプトロニクス産業の総合展示会として、日本の光・ものづくり産業癡祥の地である浜松から、大学、企業等のポテンシャルを世界に向けて情報発信し、ビジネスパートナーとの出会いの場、市場ニーズをつかむ情報交換の場、産学の橋渡しの場、新規顧客の獲得の場とするために開催した。

会期：平成24年10月24日（水）～26日（金）

会 場：アクトシティ浜松 展示イベントホール
出展団体：144 企業・団体
入場者数：2,611 人

(2) 若手・中堅の研究者及び技術者の育成

平成 23 年度に実施した「地域イノベーション戦略推進・人材育成調査」において、本地域の人材育成については「輸送機器用次世代技術」の分野が中心で「新農業」と「光エネルギー」の分野が少ないとの報告を受けたことから、新素材技術基礎講座等の機会を通じて、地域企業における人材育成に対するニーズの一層の把握に努めた。

また、地域イノベーション戦略の一環で、「新農業」と「光エネルギー」の分野において、平成 24 年度から豊橋技術科学大学と光産業創成大学院大学とが、それぞれ「先端植物工場マネージャー」「光産業創成プロデューサー」の人材育成プログラムをスタートさせており、本部との連携・協力のあり方について検討した。

(3) コーディネーター人材の充実

本地域のコーディネーターの資質向上を図るため、コーディネーターを対象として全体研修会及び活動報告会を開催した。

ア CES チーム全体研修会議

開催日：平成 24 年 12 月 10 日(月) 59 名参加

内 容：

第 1 部 イノベーション戦略推進本部の取組み及び CES 活動の紹介、解説

- ① 「CES」と「イノベーションアリーナ」「地域イノベーション戦略支援プログラム」への期待
- ② 「地域イノベーション戦略支援プログラム」の現状と今後
- ③ 「CES」の活動経緯と第 1 フェーズの終結に向けて
- ④ 「地域コーディネーター名簿」について

第 2 部 各専門分野に分かれてのワーキング

イ 平成 24 年度活動報告会

開催日：平成 25 年 2 月 25 日 (月) 49 名

内 容：

第 1 部 招待講演

「地域自動車関連産業の持続的発展を目指した産学官連携活動」
公益財団法人ひろしま産業振興機構

カーエレクトロニクス推進センターセンター長 岩城 富士夫 氏

第 2 部 藤田チーム長から「CES チーム 24 年度活動報告」の解説

第 3 部 各専門分野に分かれてのワーキング

(4) グローバル展開の強化

地域における技術開発成果の世界市場への展開に向けて、情報収集に努めるとともに、次の事業を実施した。

ア 「テクノ NET はままつ」の強化

「知的クラスター創成事業」(平成 19 年度～23 年度)により構築した「テクノ NET はままつ」(新規顧客開拓のためのマーケティングサイト)を、世界市場に向けた販路開拓の効果的なツールとして活用するため、英語対応化を実施した。

イ ドイツ・イエナ地域との交流

平成 25 年 2 月にドイツ・チューリンゲン州イエナ地域等を訪問し、平成 22 年 3 月に旧（財）浜松地域テクノポリス推進機構とチューリンゲン経済振興協会及びオプトネット協会との間で締結した産業交流協定（MOU）の再締結に向けて調整を行った。

（5）長期的教育システムの研究

本地域出身者が、将来の地域の産業を支え、また、世界中で研究開発に取り組むことができるような卓越した人材を育成する先進的な教育システムの導入について検討した。

ア 長期的教育システム研究チームの開催

産学官の関係者からなる「長期的教育システム研究チーム（座長：静岡大学イノベーション社会連携推進機構 副機構長 木村雅和氏）」において、8回の会議を開催し、具体的な教育システムのあり方や実現方策について検討した。

イ 韓国視察

日 程：平成 24 年 6 月 21 日（木）～23 日（土）

参加数：木村チーム長を含む 5 名

視察先：ソウル科学英才高校、放課後授業（Sweet Science School）、

ソウル中谷小学校、ソウル SUNIL 小学校、国立果川科学館

（全 5 か所）。

【総括】

平成 24 年 6 月に文部科学省から採択された「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション・支援プログラム（補助事業）」を推進するため、静岡大学の中にイノベーション戦略推進本部を設置し、13 名の地域連携コーディネーターを採用して、本格的スタートを切った。

本プログラムでは、本地域の特長を生かした先端光・電子技術をベースに、シーズから市場ニーズへの展開を目指すと同時に、輸送機器次世代技術、新農業、健康・医療、光エネルギーの 4 戰略分野における市場開拓を目指している。そのため、4 つの戦略分野には、コーディネーターによるチーム体制を設け、それぞれの分野における戦略計画を立案するとともに、事業化のための仕掛けづくりであるユニット化を計画した。

こうした活動の見える化を行うため、様々な機関による意見交換の場である「イノベーションアリーナ」の中にユニットを展開することで、各方面からの有益なフィードバックを受けながら、地域に根差した活動を行った。

また、ユニットの事業化に向けては、国、県、市等における各種支援制度（補助金等）での資金確保を目指し、関係企業への支援を行った。

本地域における国際競争力強化を具体的に推進するため、積極的に海外市場の調査を行うとともに、海外コンサルタントと本地域シーズのレビューを実施し、事業化に向けた課題の抽出を行った。

現在継続中であるドイツ・チューリンゲン州開発局、イエナ市オプトネット協会との光関連産業における交流を今後さらに推進するとともに、本プログラムの大きな柱である“本地域の特長を生かした持続可能な発展”ができる仕組みづくりを念頭において、今後の活動を推進していく。

なお、当プログラムの推進に当っては、関係 16 機関で構成する「浜松・東三河地域イノベーション戦略推進協議会」において事業の基本方針等の承認を受け、また、

進捗状況等の報告を行っている。しかしながら、平成24年度については、これら関係機関に対する情報提供が不足していたとの指摘を受けたことから、今後は適時適切な情報提供に努めていく。

2 国等の研究開発事業化支援事業

【目的】

浜松地域の中小企業及び大学・試験研究機関が共同で行っている「戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）」の管理法人として、研究開発の運営・管理を行い、開発を計画通り推進する。

【目標】

各プロジェクトの目標を達成し、管理業務を完了する。

【実施内容】

サポイン事業の管理法人として、下記の管理・運営業務を遂行した。

- ・プロジェクトの研究過程と成果に基づき、成果報告書を作成した。
- ・研究の進捗状況を検証し、発生した課題等について研究実施者と調整した。
- ・研究開発実施機関が作成する証憑書類について、指導・確認した。
- ・研究実務者会議、研究開発推進委員会を開催した。

【サポイン事業の概要】

①光を用いた微小構造評価装置の高度化及び多機能化

（実施期間：平成22年度～24年度）

放送や公文書等のアーカイブ用途には、500ギガバイト以上の大容量光ディスクが求められているが、現在は300ギガバイトまでの光ディスク評価装置しかない。

そのため、本研究では微小構造（ピット）を単位とする情報記録において、高密度に配置したピットを光で読み出す技術を導入し、開発した光学系をコンパクトに実装した評価装置を製作した。

②半溶融成形法を活用した革新的鋳物創生法の開発

（実施期間：平成22年度～24年度）

通常のダイカストは、砂型への適用は不可であり、アンダーカットや複雑な中空形状へ適用は困難であるが、半溶融成形の特長である低速・低圧での成形方法を活用することによって、これらへの適用を可能とし、自動車部品の高強度化、高機能化、形状化、一体成形化、軽量化、低コスト化を実現した。

また、成形が困難であるアルミニウム基複合材やマグネシウム合金への適用を広げるとともに、半溶融成形法を活用した革新的鋳物創生法の生産システムを開発した。

③面荒れ抑制シリコンアニール法の研究と装置開発

（実施期間：平成23年度～25年度）

高機能ディスプレーの製造産業において、川下企業やユーザーからポリシリコン膜のアニール工程でコストダウンの強いニーズがある。現在アニール工程で広く使われているエキシマレーザの代わりとして、ブルーレーザを使用し、安全で高効率なアニール法を開発する。本年度は、小型・高効率のレーザ集光系の製作、フィードバックによる高精度出力制御装置の製作、拡張性のあるXYステージの製作、シリコン膜の熱解析、物理的評価、工学的評価、素子などの試作を行った。

【総括】

上記①及び②のプロジェクトは、最終年度に当たる本年度の開発を計画通り終了した。開発途中では様々なトラブルが発生したが、研究開発実施機関 及びアドバイザーの協力により、問題を解決することができた。③のプロジェクトは、研究開発実施機関（琉球大学）が離れていてコミュニケーションが取りにくいこと、企業規模が小さく補助金経理処理に不慣れなことにより、事務上の問題が発生したが、来年度に向けて改善策を検討する。

地域中小企業が研究開発や新規事業展開等に、サポインをはじめ国の資金を活用できるよう支援することは、産業支援機関の重要な役割であり、今後とも国の支援策の獲得に向けて、積極的に対応していく。

3 市場・販路開拓支援事業

【目的】

市内中小企業（製造業）に対し、国内外（県内を除く）で開催される各種展示会への出展を促すとともに、首都圏を中心として市場・販路開拓に向けた支援を行う。

【実施内容】

(1) 中小企業展示商談会出展支援事業

①海外	応募企業数	6 社
	交付決定額	1,200 千円（採択企業数：6 社）
	交付確定額	1,000 千円（補助金交付企業数：5 社）※1 社辞退
<出展展示商談会の名称>		
・ IFSEC2012（イギリス） ・ FHA2012（第18回アジア国際食品＆飲料 ホテル／レストラン／ベーカリー／フードサービス機器機材展）（シンガポール）他		
②国内	応募企業数	24 社
	交付決定額	2,187 千円（採択企業数：24 社）
	交付確定額	1,944 千円（補助金交付企業数：23 社）※1 社辞退
<出展展示商談会の名称>		
・ 第8回ビジネスフェア2012（名古屋） ・ 第4回国際マグネシウム展 in 東京ビッグサイト2012（東京都） ・ 2012国際医用画像総合展（神奈川県）他		

(2) 「機械要素技術展」への出展

出 展 先：第16回機械要素技術展（M-Tech）

主 催：リード エグジビション ジャパン（株）

開催概要：機械要素、加工技術を集めた日本最大の専門展示会。軸受、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械要素や、金属、樹脂に関する加工技術を一堂に集めた専門技術展。毎年、設計・開発、製造・生産技術部門を中心とした製造業ユーザーが多数来場し、出展企業と商談が行われるもの。

会 期：平成24年6月20日（水）～22日（金）

会 場：東京ビッグサイト

出展企業： 10社（計3小間：間口18m×2.7m）

企業名	展示製品	所在地
（株）コマックス	小型レーザ加工機、レーザーマーカー等	浜松市南区
中野ハガネ（株）都田研究所	絶縁性金属製品等	浜松市北区
（株）キヤップ	軽量・高強度な金属代替樹脂成形品	周智郡森町
（株）エヌエスティー	電動アクチュエータ	浜松市北区
（株）エコム	排熱回収型省エネガスバーナー等	浜松市北区
橋本エンジニアリング（株）	強制冷却機能付油圧シリンダー等	浜松市浜北区
（株）榛葉鉄工所	マグネシウム・チタン自転車フレーム等	掛川市
（株）テクニカルサポート	モーター性能ベンチ	浜松市北区
（有）岩倉溶接工業所	レーザ加工品、板金溶接加品	島田市
（株）TRINC	除電器	浜松市西区

【総括】

補助金については、単に展示会への出展費用を補助するだけではなく、出展後に経営コーディネーターが出展企業を訪問し、ヒアリングによる成果の確認や必要なアドバイスを行った。これにより、個々の企業に対する販路開拓を支援することができたが、今後は、個々の企業への補助だけではなく、浜松地域全体のPRへつなげていくことが必要である。

また、機械要素技術展については、応募のあった15社から、内部審査により10社を選定し、出展を行った。出展企業からは、来訪者が多く、商談、意見交換、新規顧客の獲得、情報発信や情報収集ができたなど、出展効果を評価する意見があった。一方、展示スペースやブース配置など展示方法の改善を求める声や「浜松地域」としてのPRが不足しているとの声も聞かれた。これらは、小間装飾費用を増やすことで改善できる面ではあるが、今回は、予算の制約もあり、小間装飾費用を出展者負担金で賄うこととし、事前の説明も行ったが、結果的には地味な小間装飾となった。

公IV 債務保証事業

優れた技術力・製品開発力を有しながらも資金調達が難しい中小企業の研究開発等を支援するため、債務保証事業を行う。

1 債務保証事業

【目的】

地域中小企業の行う技術、商品の研究開発における資金調達の円滑化を図り、研究開発型企業の育成振興を促進する。

【実施内容】

静岡県特別政策融資制度の経営革新等支援資金（高度技術開発貸付）に連動して、中小企業が借り入れた研究開発資金に対して、債務保証を行うものである。

(1)債務保証額

平成24年度現在の債務保証額 3件 20,175千円

(2)既債務保証企業の調査・指導

企業の経営状況の確認、指導、情報の提供を行い、研究開発等の状況について調査、指導した。

(3)求償権の実行

代位弁済した企業に係る求償権の管理・実行を行った。

(4)債務保証審査委員会

審議案件はなく委員会は未開催。

【総括】

優れた技術力、商品開発力を有しながら、資金調達力の不足等により、円滑な研究開発ができない地域中小企業のために、高度な工業技術の研究開発等に対する資金の借入れに対して、無担保の債務保証を行うことは、産業支援制度として必要である。

公V 高度技術振興事業

高度技術振興基金を活用し、地域企業への研究開発支援、高度情報技術者の育成支援等を通じて、研究開発型中小企業の育成を目指す。

1 研究開発支援事業

【目的】

地域の研究開発型中小企業に対する研究開発支援のため、国等の各種支援事業の地域企業への情報提供や、地域企業からの研究開発に関する各種相談への対応により、産学官による研究開発プロジェクトの形成や、他企業や研究機関等への橋渡しを行う。

【実施内容】

戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン事業）チャレンジセミナー及び個別相談会を開催した。

開催日：平成 24 年 12 月 11 日（火）14:00～17:15

参加者：セミナー（43 名） 個別相談会：8 社

- (1) サポイン事業に関する支援について
- (2) サポイン事業の目的と概要・活用事例
- (3) 財団の各種助成事業の紹介
- (4) 個別相談会

【総括】

本年度、初めて実施した。従来のありがちな制度説明ではなく、申請書に記載すべきポイントを中心に説明したことが参加者から好評であった。財団にとっても、来年度の申請希望企業を把握することができ、有意義であった。次年度は、開催時期を早め、個別相談により力を入れていく。

2 情報技術者等養成研修事業

【目的】

地域中小企業の高度化のため、最新の 3 次元 CAD/CAM の機能や、活用による設計事例に関する研修を実施し、高度情報技術者等の養成を支援する。

【実施内容】

㈱カワイビジネスソフトウェア及び㈱アルモニコスと連携して、3 次元 CAD/CAM 及び構造解析等の操作体験セミナー、3 次元 CAD データ活用の操作体験セミナーを実施した。また、光産業創成大学院大学と連携して「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」を実施した。

(1) 3 次元 CAD/CAM 操作セミナー

開催回数：15 回

会 場：浜松地域イノベーション推進機構 半田山事務所 1F 研修室

㈱カワイビジネスソフトウェア 研修室、㈱アルモニコス 会議室

参加者数：120 名

研修内容：ソリッドワークス操作体験、3 次元 CAD データ修正・形状簡略化・ポリゴン等各種操作体験

(2) 「レーザーによるものづくり中核人材育成講座」の開催支援

開催回数：18 回

会 場：サーラシティ浜松、浜松労政会館等

参加者数：32 名

研修内容：レーザープロセシング基礎コース、加工技術コース、産業応用コース

【総括】

参加者数は目標を大きく上回った。今後、受講者のニーズを把握し、タイムリーな内容を実施していく。

3 研究成果の事業化支援事業

【目的】

各地域の产学研官連携推進機関との広域的な連携により、地域企業における国等の各種研究開発事業による研究開発成果の普及、国内及び国際的な市場に向けた事業化展開を支援する。

【実施内容】

「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点（はままつ医工連携拠点）」への活動支援を通じて、地域企業への事業化活動をサポートした。

【総括】

はままつ医工連携拠点は、1件以上の事業化を目標としたが、薬事承認準備に時間が掛かり、事業化は次年度以降になった。次年度は、薬事認証準備に力を入れて事業化を目指す。

4 次世代自動車等技術調査事業

【目的】

浜松地域の产学研官が一体となり、次世代環境車の部品や制御に関する地域企業の技術力向上や、次世代環境車を視野に入れた浜松地域の産業構造の転換を促進する。

【実施内容】

EV用モータの仕組みや制御技術、最新動向を地域企業の機械系技術者に理解してもらうために「次世代環境車セミナー」を開催した。また、地域の企業や大学で開発中の「太陽光発電式EV・PHV充電システムの開発」及び「車載用バッテリー充電器の開発」の2つのテーマをサポートした。また、「はままつ次世代環境車社会実験協議会」の後継活動組織として「はままつ次世代環境車フォーラム」を立ち上げた。

【総括】

「はままつ次世代環境車社会実験協議会」の「部品・制御技術開発部会」の活動を通して、これまで地域経済を牽引してきた輸送用機器の基盤技術は、自動車の動力源がエンジンからモータに代わっても、モータ部品の軽量化、高機能化、VA・VEに応用可能なことが確認できた。しかしながら、次世代環境車のキーとなるパワーエレクトロニクスや情報などの技術は、地域の中小企業からの提案が非常に少なく、今後、地域として技術レベルや競争力向上の施策検討が必要である。今後、「はままつ次世代環境車フォーラム」の活動として、ITSをはじめ最新の技術についての勉強会や、市民向けの次世代環境車の啓発セミナーを開催する。

公VI 地域産業活性化事業

地域産業活性化基金を活用して、中小企業の製品開発、技術開発等に関する補助金の交付や「はままつメッセ」の開催による販路開拓支援等を通じて、地域産業の活性化を目指す。

1 地域産業活性化補助金交付事業

【目的】

技術革新に即応した新たな技術を製品の開発又は生産等に利用し起業化を行う中小企業者に、その必要経費の一部を補助することにより地域産業の活性化を促進する。

【実施内容】

下記採択企業の申請目標を年度内に達成し、開発成果を「はままつメッセ 2013」に出展した。

〈交付実績〉 6社 6,000千円

(単位:円)

企業名	研究開発事業 (成果) 進捗報告 (2013年2月末時点)	交付予定額
		総事業費
(株)クロステーデバイス	浜松市の観光施設や史跡・遺跡などの文化的資産を、インターネット上で360度の全方位映像で紹介する配信技術の研究 (成果と今後) 開発を終了し、デモ紹介を開始。	1,500,000
		4,900,000
原田精機(株)	光ダウリンク地上局用光アンテナ装置の開発 (成果と今後) アンテナ装置受信部の試作を完了。	1,500,000
		4,150,000
(株)ハラ製作所	エンドミル機能を有するロコットボット加工機の開発 (成果と今後) 試作機をメッセで展示。販売を開始。	1,000,000
		4,220,000
(株)フジコーポレーション	自動車燃費向上のための部品軽量化技術 (成果と今後) 試作、評価を完了。	1,000,000
		5,000,000
大西農園 Veggy	耕作放棄地解消とブランド野菜構築によるビジネス経営体農業の開発 (成果と今後) 土壌改良によりレタスの収穫歩留まりが向上。	500,000
		1,650,000
東洋ガス(株)	緊急電源対応全自動LPG発電装置の試作及びマーケティング (成果と今後) 試作機が完成し、事業化に向けて準備中。	500,000
		4,000,000
計		6,000,000
		23,920,000

【総括】

360度全方位映像、ロボット加工機、LPG発電装置は開発をほぼ終了し、販売のための活動を開始した。補助金採択の経験が乏しい企業は経理書類の不備が多く、確定作業に時間を要した。今後、より分かりやすい説明、マニュアル作成を検討していく。

2 総合展示会「はままつメッセ」の開催

【目的】

浜松地域の企業、大学、研究機関等を中心に、販路開拓を目指す技術・製品・サービス等を展示し、日頃の活動成果や技術・製品等を紹介するとともに、来場者と参加の交流・情報交換を通じて、新たなビジネスチャンスを提供する。

また、県域を越えた産学官連携プログラムである「浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーション」の事業成果の発表を通じて、他地域の機関とも新たな連携の構築を目指すことを目的とする。

【実施内容】

「第23回はままつメッセ 2013」を以下のとおり開催した。今回は、新財団の新しいスローガンである「科学・技術と知恵・感性の融合」をメッセのテーマとして掲げることで、財団の新たなスタートと目指す方向性をPRした。

なお、今回は併催事業として、初日に「一日中小企業庁 in はままつ」（主催：静岡県、浜松市、中小企業庁、関東経済産業局）が開催された。

日 時：平成 25 年 1 月 24 日（木）～25 日（金）

会 場：アクトシティ浜松 展示イベントホール

来場者数：3,680 人（1 月 24 日 1,862 人、1 月 25 日 1,818 人）

出展企業：150 社・団体（計 189 小間）

うち 静岡県内 106、県外 44、（初出展 54）

出展分野 機械金属…33、光・電子…12

デジタルネットワーク・コンテンツ…10

健康・医療…8、新農業…1

生活文化・環境・その他…45

支援機関…22、福井県…5、富山…8、北海道…6

（全 10 分野、数字は分野ごとの出展者数）

出展者ミニプレゼンテーション：

販路開拓のため、出展者による新技術・新製品発表を行っていただくミニプレゼンテーションの場を展示会場内に設置。

持ち時間 20 分で 1 日目 10 企業・団体、2 日目 8 企業・団体が発表した。

【総括】

今回のメッセは、会場を従来のグランドホテル浜松からアクトシティ・展示イベントホールに変更することで、展示面積の拡大と出展者・来場者の交通の利便性の向上を実現した。また、ブースレイアウトも出展分野ごとに集め、展示内容が分かりやすいよう考慮した。

今後は、本財団の強みである産学官連携や成長 6 分野に特化した企画を行い、来場者向けの広報の配布先等を再検討することで、集客力のアップを目指していく。とりわけ、メッセの究極の目的である技術の事業化や製品の販売に向け、来場者（商社や大手企業等）の確保に取り組むとともに、出展者と来場者の交流促進について工夫を行う。

3 商品化、事業化支援事業

【目的】

地域中小企業の新製品・新技術の販路開拓を図るため、静岡県中小企業テクノフェア等、広域的な販路開拓目的の展示会への出展を広く呼びかけ、効果的な出展が可能

となるよう支援する。

【実施内容】

地域企業に対して「ふじのくに販路開拓展 2012」及び「中部ものづくり基盤技術展」等への出展案内を行い、展示方法等についてサポートした。

【総括】

補助金や開発委託などで財団と関係がある企業に対する活動が中心となった。今後も、販路開拓等に向け効果的な出展ができるように積極的な情報収集を行い、出展企業に対して、ブースの設定方法やプレゼンテーションの仕方などについて、アドバイスや啓発などの活動を進めていく。

4 販路開拓のための人材育成事業

【目的】

中小企業が抱える自社製品の販路開拓に関する具体的な問題に対し、講師に迎えて個別相談会を実施し、販路開拓に係る知識向上を図り、担当者の人材育成を行う。

【実施内容】

講師：独立行政法人中小企業基盤整備機構関東支部

販路開拓チーフアドバイザー 青島 弘幸 氏

会場：はままつメッセ 2013 会場（アクシティ浜松 展示イベントホール）

開催日：平成 25 年 1 月 24 日（木）13:00～15:50

相談件数：3 件

相談企業：（株）ニシムラ工業所、（株）クロスデバイス、エボルテック（株）

開催日：平成 25 年 1 月 25 日（金）11:00～14:50

相談件数：3 件

相談企業：（株）マイルド・サービス、（株）中部プログレス、千年杉建築事務所

【総括】

「はままつメッセ 2013」との同時開催により、相談者の利便性が図られた。

相談企業は、業種や商品も異なっていたが、販路開拓アドバイザー青島氏から、各社の営業担当者に対して、個別、具体的なアドバイスが行われた。

各社共通の課題として、マーケティングの知識が乏しく、マーケットリサーチ及び具体的な販売戦略がなく、営業活動も消極的な状況が伺われた。

具体的なアドバイスとして、専任の営業担当者を配置した販促活動の強化や、販売代理店との提携、委託販売による販促活動の強化、専門家の指導によるマーケティングの知識の向上などが提案された。

相談企業からは、適切なアドバイスにより今後の活動指針が明確になり、意欲的に取り組むことができるとの評価をいただき、人材育成の一助になった。

参考資料

財 団 の 運 営

1 基本財産及び基金

(単位 千円)

基本財産・ 基金 出捐者	基本財産	債務保証 基 金	高度技術 振興基金	地域産業 活性化基金	合 計
静 岡 県 (うち国庫支出額)	60,000	113,000	180,0000 (147,790)	660,000 (330,000)	1,013,000 (477,790)
浜 松 市	430,000	113,000			543,000
(旧浜松市)	(430,000)	(63,070)			(493,070)
(旧浜北市)		(20,440)			(20,440)
(旧天竜市)		(11,080)			(11,080)
(旧細江町)		(9,430)			(9,430)
(旧引佐町)		(8,980)			(8,980)
民間企業 (社 数)	115,700 (33)	134,000 (31)			249,700
合 計	605,700	360,000	180,000	660,000	1,805,700

平成 25 年 3 月 31 日現在

2 役員及び委員

(1) 理事・監事（定款第22条）

平成25年3月31日

(氏名 五十音順)

	氏名	所属	役職
理事長	津田 紘	スズキ(株)	相談役
理事	大坪 豊生	ヤマハ発動機(株)	顧問
〃	加藤 博万	ヤマハ(株)	前顧問
〃	佐野 良夫	(株)河合楽器製作所	副社長執行役員
〃	鈴木 和博	浜松信用金庫	専務理事
〃	鈴木敬太郎	中部ガス(株)	浜松支店長
〃	原 勉	浜松ホトニクス(株)	取締役中央研究所長
〃	古橋 敏明	(社)静岡県繊維協会	副会長
〃	蓑島 伸生	浜松医科大学	副学長
〃	柳澤 正	静岡大学	理事・副学長
専務理事	太田 純司	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	専務理事
監事	山内 致雄	(株)電興社	代表取締役社長
〃	中野 純	中野純公認会計士・税理士事務所	所長

(2)評議員（定款第12条）

平成25年3月31日

(氏名 50音順)

氏 名	所 属	役 職
評議員 秋山 雅弘	(株)アルモニコス	代表取締役社長
〃 荒木 信幸	静岡理工科大学	学長
〃 安形 秀幸	浜松市	産業部長
〃 加藤 義章	光産業創成大学院大学	学長
〃 榎 佳之	豊橋技術科学大学	学長
〃 坂本 佳観	(株)静岡銀行	常務執行役員
〃 中安 茂夫	エンシュウ(株)	代表取締役会長
〃 服部 貴應	(株)エヌエスティー	代表取締役社長
〃 丸山 康雄	中部電力(株)	静岡支店 浜松営業所長
〃 望月 誠	静岡県	経済産業部商工業局長
〃 山本 長行	遠州信用金庫	会長

(3) 平成 24 年度地域産業活性化委員（地域産業活性化事業業務方法書第 4 条）

氏名	所属	役職
委員長 服部 貴應	(株) エヌエスティー	代表取締役社長
副委員長 松本 好司	天方産業(株)	代表取締役社長
委員 磯部 賢二	静岡県浜松工業技術支援センター	センター長
〃 太田 純司	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	専務理事
〃 神谷 直慈	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	特任准教授・弁理士
〃 木村 雅和	静岡大学イノベーション社会連携推進機構	副機構長
〃 三井 啓義	浜松市	産業部産業振興課長

3 会議

(1) 理事会

① 平成 24 年度 第 1 回理事会

開催日時 平成 24 年 6 月 5 日 (火) 13:30~
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 10 名

審議事項

第 1 号議案	平成 23 年度事業報告について
第 2 号議案	平成 23 年度収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書及び財産目録)について
第 3 号議案	定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について

② 平成 24 年度 第 2 回理事会

開催日時 平成 24 年 12 月 10 日 (月) 14:00~
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 8 名

審議事項

第 1 号議案	平成 24 年度事業計画の一部変更について
第 2 号議案	平成 24 年度収支補正予算(案)について
第 3 号議案	評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等について
報告第 1 号	浜松・東三河ライフフォトニクスイノベーションの状況
報告第 2 号	職務執行の状況

③ 平成 24 年度 第 3 回理事会

開催日時 平成 25 年 3 月 7 日 (木) 10:00~
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 10 名

審議事項

第 1 号議案	平成 25 年度事業計画(案)について
第 2 号議案	平成 25 年度収支予算(案)について
第 3 号議案	債務保証事業業務方法書の一部改正について
第 4 号議案	経理規程の一部改正について
第 5 号議案	事務局運営規程の一部改正について
第 6 号議案	就業規則の制定について
第 7 号議案	職員の定年に関する規程の廃止について
第 8 号議案	評議員会の日時及び場所並びに目的である事項について
報告第 1 号	専務理事候補者について

④ 平成 24 年度 第 4 回理事会

開催日時 平成 25 年 3 月 28 日（木）13:30～
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 10 名
審議事項
第 1 号議案 専務理事の選定について
第 2 号議案 事務局長の承認について

(2) 評議員会

① 平成 24 年度 第 1 回評議員会

開催日時 平成 24 年 6 月 21 日（木）10：05～
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 7 名
審議事項
第 1 号議案 評議員の選任について
第 2 号議案 平成 23 年度事業報告について
第 3 号議案 平成 23 年度収支決算(貸借対照表、正味財産増減計算書、収支計算書及び財産目録)について

② 平成 24 年度 第 2 回評議員会

開催日時 平成 24 年 12 月 20 日（木）15：00～
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 6 名
審議事項
第 1 号議案 平成 24 年度事業計画の一部変更について
第 2 号議案 平成 24 年度収支補正予算(案)について
報告第 1 号 浜松・東三河ライフオトニクスイノベーションの状況
報告第 2 号 職務執行の状況

③ 平成 24 年度 第 3 回評議員会

開催日時 平成 25 年 3 月 28 日（木）10：00～
開催場所 公益財団法人 浜松地域イノベーション推進機構 8 階会議室
出席者 9 名
審議事項
第 1 号議案 理事の選任について
第 2 号議案 平成 25 年度事業計画(案)について
第 3 号議案 平成 25 年度収支予算(案)について
第 4 号議案 役員の報酬等に関する規程の一部改正について
報告第 1 号 事務局長候補者について

4 研究会推進事業(企業連携交流促進事業)

(1)異業種交流グループ

平成 25 年 3 月 31 日

名 称	代 表 者	発足年度	現会員数
ア. TMプラザはままつ	会長 神谷 文吾 神谷理研(株) 代表取締役社長	昭和 62 年	35 社
イ. 浜松技術交流プラザ 82	代表幹事 岩井 久孝 ニューロン(株) 代表取締役社長	昭和 57 年	14 社
ウ. 都田アソシエイツ	代表幹事 服部 貴應 (株)エヌエスティー 代表取締役社長	平成 5 年	57 社

(2)成長分野研究会

平成 25 年 3 月 31 日

名 称	代 表 者	発足年度	現会員数
ア. VB・VC研究委員会	委員長 川島 順三 浜松堀留(株) 代表取締役社長	昭和 58 年	18 社
イ. ソフトウェア産業振興研究委員会	委員長 山内 致雄 (株)電興社 代表取締役社長	昭和 59 年	33 社
ウ. 先端精密技術研究会	会長 中村 和夫 エンシュウ(株) 常勤監査役	平成 10 年	59 社 23 名
エ. 次世代設計・製造構造研究会	会長 戸上 常司 ヤマハ発動機(株) 顧問	平成 19 年	17 社
オ. 浜名湖のリブランド推進協議会	代表幹事 松田 和敏 マツダ食品(株) 代表取締役社長	平成 21 年	23 社

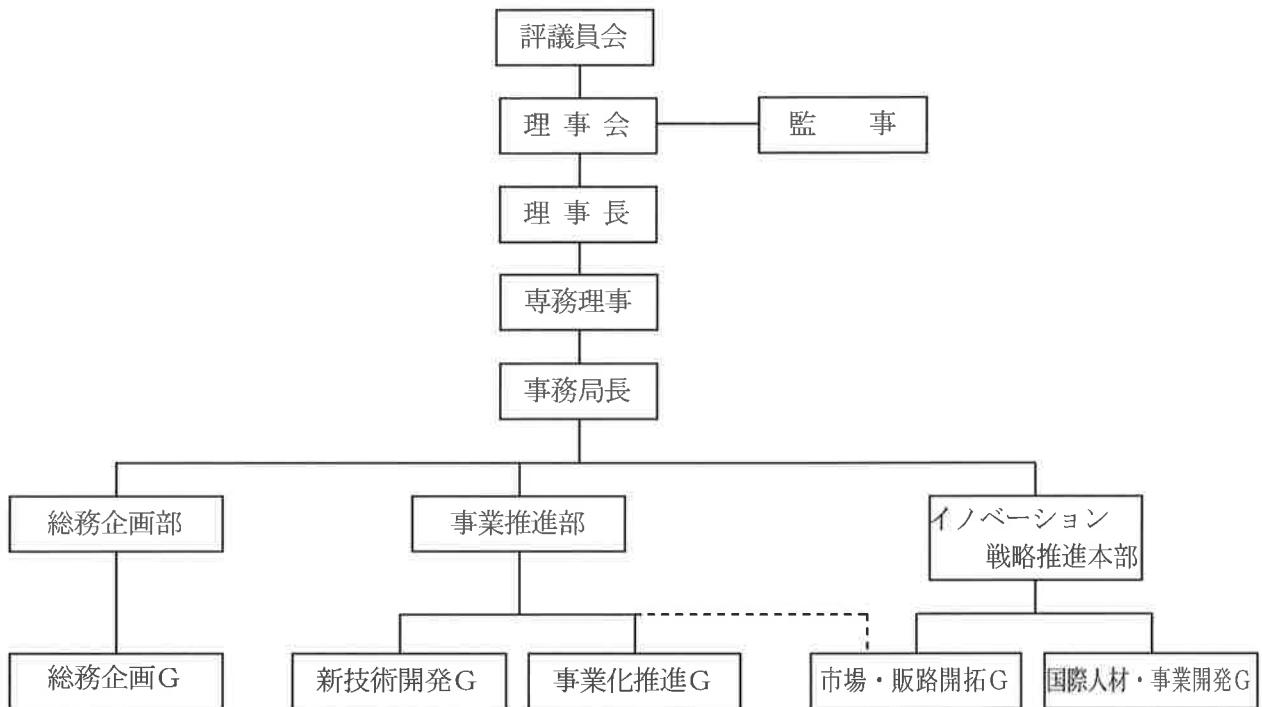
5 賛助会員

平成 25 年 3 月 31 日

1	日星電気 <small>(株)</small>	代表取締役会長	河野 勝男	浜松市西区大久保町 1509
2	<small>(株)</small> 呉竹荘	代表取締役社長	山下 智司	浜松市中区東伊場 1-1-26
3	<small>(株)</small> 聰濤館グランドホテル浜松	代表取締役社長	佐藤 獻	浜松市中区東伊場 1-3-1
4	<small>(協)</small> テクノランド細江	理事長	山本 純夫	浜松市北区細江町中川 7000-1
5	<small>(株)</small> 平安コーポレーション	代表取締役	鈴木 通友	浜松市南区三島町 1418
6	パルステック工業 <small>(株)</small>	代表取締役社長	鈴木 幸博	浜松市北区細江町 7000-35
7	<small>(株)</small> 高井製作所	代表取締役社長	高井 理恵	浜松市東区有玉南町 1168
8	エンシュウ <small>(株)</small>	代表取締役会長	中安 茂夫	浜松市南区高塚町 4888
9	<small>(株)</small> エヌエスティー	代表取締役社長	服部 貴應	浜松市北区新都田 4-3-1
10	中野純公認会計士事務所	所長	中野 純	磐田市今之浦 4-17-10
11	<small>(株)</small> 遠鉄トラベル	代表取締役社長	村松 修	浜松市中区旭町 12-1
12	<small>(株)</small> ユニバス	代表取締役社長	村松 道奏	湖西市驚津 2418
13	やまと興業 <small>(株)</small>	代表取締役社長	小杉 昌弘	浜松市浜北区横須賀 1136
14	<small>(株)</small> 電興社	代表取締役社長	山内 致雄	浜松市南区御本町 98
15	<small>(株)</small> 浅沼技研	代表取締役	浅沼 進	浜松市西区湖東町 4079-1
16	ローランド テクノジー <small>(株)</small>	取締役社長	富岡 昌弘	浜松市北区新都田 1-6-4
17	橋本エンジニアリング <small>(株)</small>	代表取締役社長	橋本 裕司	浜松市浜北区平口 5559
18	東海電子印刷 <small>(株)</small>	代表取締役会長	鳴津 陽三	浜松市南区若林町 888-122

6 事務局体制
〔組織図〕

平成 25 年 3 月 31 日



評議員	11
理事	11
監事	2

部長	1
グループ長	1
主幹	1
職員	1
嘱託職員	2
派遣職員	1

部長	1
グループ長	2
コーディネーター	5
主任	2
職員	1
嘱託職員	2

本部長	1
本部長代理	1
本部次長	1
グループ長	1
コーディネーター	22
主幹	1
主任	1
事務補助員	3
嘱託職員	1
派遣職員	1